

Telelogic Synergy  
インストール ガイド Windows 版  
リリース 6.6a

本書をご使用になる前に、67 ページの「特記事項」に記載されている情報をお読みください。

本書は、Telelogic Synergy（製品番号 5724V66）バージョン 6.6a および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

© Copyright IBM Corporation 1997, 2008.

---

# 目次

<b>第 1 章：はじめに</b>	<b>1</b>
Readme .....	1
旧リリースからのアップグレード.....	1
本リリースの概要.....	1
Telelogic Synergy 6.6a によってインストールされるインターフェイス.....	1
リリースの互換性 .....	2
ユーザーの前提条件.....	2
コンサルティング サービス .....	3
サポートへのお問い合わせ.....	3
製品サポート .....	3
その他の情報 .....	3
ガイドで使用する表記規則.....	4
Telelogic Synergy のドキュメント .....	4
<b>第 2 章：用語解説</b>	<b>5</b>
<b>第 3 章：Telelogic Synergy インストール チェックリスト</b>	<b>7</b>
インストール前の作業.....	7
インストール.....	8
ライセンス .....	8
Telelogic Synergy .....	8
インストール後の作業.....	9
トラブルシューティング.....	10
<b>第 4 章：インストール前の作業</b>	<b>11</b>
インストールするもの.....	11
カスタマ サイトごとにインストールするもの.....	11
ユーザーごとにインストールするもの .....	12
サーバー インストール計画 .....	13
メインと追加 Windows サーバー マシンの要件 .....	14
メインおよび追加 Windows サーバー用の領域計画.....	16
クライアント インストール計画 .....	18
クライアント マシンの要件.....	18

---

クライアント領域計画 .....	19
システムの準備 .....	20
ディスク領域注意事項 .....	20
Services ファイルの確認 .....	21
Telelogic Synergy アドミニストレータの作成 .....	21
Telelogic License Server のインストール .....	22
<b>第 5 章：サーバーのインストール</b> .....	<b>23</b>
サーバー ソフトウェアをインストールする前に .....	23
Telelogic Synergy Windows サーバーのインストール .....	24
メイン Windows サーバーのインストール .....	25
自動更新プロセスのガイドライン .....	42
追加 Windows サーバーのインストール .....	43
自動更新プロセスのガイドライン .....	55
カスタム インストールの実行 .....	56
カスタム インストールの例：エンジン .....	58
サーバー ソフトウェアのインストール後 .....	60
自動更新によるクライアント インストールの更新 .....	60
<b>第 6 章：クライアントのインストール</b> .....	<b>61</b>
Telelogic Synergy クライアント .....	61
自動更新プロセスのガイドライン .....	61
コンパクト クライアントのインストール .....	62
<b>付録：特記事項</b> .....	<b>67</b>
商標 .....	69
<b>索引</b> .....	<b>71</b>

# 1

## はじめに

この章では、Telelogic® Synergy™ を Windows にインストールする前に知っておくべきことについて説明します。

### Readme

*Readme* ファイルにより、このリリースの新機能や対応するハードウェアとオペレーティング システムのリストなど、Telelogic Synergy ソフトウェアの最新情報を提供しています。ソフトウェアをインストールする前に、この情報を確認してください。*Readme* は、Telelogic Synergy サポート ウェブ サイト (<https://support.telelogic.com/synergy>) および Telelogic Synergy と一緒に提供されるドキュメント メディアに用意されています。ドキュメントの入手方法の詳細については、4 ページの「Telelogic Synergy のドキュメント」を参照してください。

**注記：***Readme* は、最新情報を提供するため、必要に応じて更新および再発行されます。常に最新バージョンを確認するため、Telelogic Synergy サポート ウェブ サイトから電子版をダウンロードしてください。

### 旧リリースからのアップグレード

既存の Telelogic Synergy データベースから Telelogic Synergy の最新リリースにアップデートできます。アップグレード手順については、『Telelogic Synergy アップグレードガイド Windows 版』を参照してください。

この手順説明は、Telelogic Synergy サポート ウェブ サイト (<https://support.telelogic.com/synergy>)、および Telelogic Synergy 製品とともに提供される DVD のドキュメント セクションに用意されています。

### 本リリースの概要

#### Telelogic Synergy 6.6a によってインストールされるインターフェイス

Windows 版 Telelogic Synergy は以下のグラフィカル ユーザー インタフェースを提供します。

- Telelogic Synergy

このインターフェイスは、旧リリースでは開発者用 Telelogic Synergy と呼ばれていました。これは、*developer* または *build\_manager* ロールのユーザー向けインターフェイスです。日常の開発およびビルド管理作業用の機能が用意されています。

- **Telelogic Synergy Classic**

このインターフェイスは旧バージョンでは「オリジナル クライアント」と呼ばれていたもので、CM アドミニストレータおよび DCM アドミニストレータ向けの機能が用意されています。

## リリースの互換性

本リリースの主な特徴は、以下のとおりです。

- Telelogic Synergy は、クライアント、エンジン、およびデータベースがすべて同じリリースの場合のみ実行できます。異なるリリースの Telelogic Synergy のコンポーネントは一緒に使用できません。
- Telelogic Synergy を実行するには、ライセンス サーバーをインストールする必要があります。
- Windows クライアントは UNIX および Windows サーバーとともに使用できます。
- UNIX クライアントは UNIX サーバーとのみ使用できます。
- クライアントが 6.6a データベースにアクセスできるようにするには、事前に Windows クライアントで Telelogic Synergy リリース 6.6a を使用可能にする必要があります。

Telelogic Synergy 6.6a は Telelogic Change 4.6.1 以降と互換性があります。Telelogic Change を使用している場合、Telelogic Synergy 6.6a にアップグレードすると同時に Telelogic Change 4.6.1 にアップグレードする必要があります

## ユーザーの前提条件

メイン サーバーをインストールするには、以下の知識が必要です。

- ローカル管理権限、ドメイン管理権限を含む Windows システム管理の知識があること。
- 使用環境のハードウェア インフラとネットワーク トポロジの知識があること。
- プロジェクトでの Telelogic Synergy の利用方法についての知識があること。たとえば、リモートビルド用にインストールを設定する必要があるかなどの知識が必要です。

コンパクトクライアントをインストールするには、62 ページの「コンパクトクライアントのインストール」に記述されている権限と許可が必要です。

## コンサルティング サービス

ソース レベルでカスタマイズされたデータベースなどでは、アップグレード手順が複雑になることがあります。コンサルタントはあなたのデータベースを最新データベースにアップグレードできます。データベースのアップグレードに関する詳細については、以下のウェブ サイトからテレロジック プロフェッショナル サービスにお問い合わせください。

<https://support.telelogic.com/synergy>

## サポートへのお問い合わせ

Telelogic 製品のサポートと情報は、Telelogic サポートサイトから IBM Rational Software Support に移行中です。この移行期間中は、サポートの連絡先がお客様によって異なります。

### 製品サポート

- 2008 年 11 月 1 日より前に Telelogic 製品を取引されたお客様は、[Synergy サポート ウェブサイト](#) をアクセスしてください。

製品情報の移行後に、IBM Rational Software Support site に自動で転送されます。

- 2008 年 11 月 1 日より前に Telelogic 製品のライセンスをお持ちではなかった新規のお客様は、[IBM Rational Software Support site](#) をアクセスしてください。

お客様サポートにお問い合わせいただく前に、問題を説明するために必要な情報をご用意ください。IBM ソフトウェアサポート担当員に問題を説明する際には、担当員が迅速に問題を解決できるように、問題の具体的な内容と必要な背景情報をすべて伝えてください。あらかじめ以下の情報をご用意ください。

- 問題発生時に使用していたソフトウェアとそのバージョン
- 問題に関連したログ、トレース、メッセージなど
- 問題を再現できるかどうか。再現できる場合はその手順
- 回避策があるかどうか。ある場合は、その回避策の内容

### その他の情報

Rational ソフトウェア製品、ニュース、イベント、その他の情報については、[IBM Rational Software Web site](#) をご覧ください。

## ガイドで使用する表記規則

下表に、このガイドで使用している書体と記号の規則を示します。

書体	説明
イタリック	ロール ( <i>developer</i> )、状態 ( <i>working</i> )、グループ ( <i>ccm_root</i> ) およびユーザー ( <i>john</i> ) の名前を表します。
太字	メニュー名、ダイアログボックスのオプションと表題、および強調するときを使用します。
Courier	コマンド、ファイル名、ディレクトリパスに使用されます。表示どおりに入力するコマンド構文を表します。また画面上に表示されるコンピュータ出力、属性 ( <i>modify_time</i> )、コマンド ( <i>ccm start</i> )、関数 ( <i>remote_type</i> )、およびタイプ ( <i>csrc</i> ) の名前を示します。
<i>Courier Italic</i>	ユーザーが指定するコマンド文字列内の値を示します。たとえば、 <i>drive:¥username¥commands</i>

このドキュメントには以下の表記規則も含まれます。

**注記：**注意すべき情報を示します。

**注意！**守らないとデータベースまたはシステムに重大な被害を及ぼす可能性のある情報を示します。

## Telelogic Synergy のドキュメント

特に指定されていない限り、テレロジックドキュメントは、Telelogic Synergy サポート ウェブ サイト (<https://support.telelogic.com/synergy>)、および Telelogic Synergy 製品 Telelogic Synergy 製品とともに提供される DVD のドキュメント セクションに用意されています。

**注記：**Telelogic Synergy サポート ウェブ サイトを閲覧するにはユーザー名とパスワードを入力する必要があります。ユーザー名、パスワードをお持ちでない場合は、キャンセルをクリックし、それらを取得する画面上の指示に従ってください。



# 2

## 用語解説

このガイドに記述される操作を実行するには、以下の用語とその意味を理解している必要があります。

### **Telelogic License Server**

ライセンス サーバーはユーザーからの Telelogic Synergy データベースへのアクセスが妥当かどうかを判定します。ライセンスの管理は、FLEXnet を使用して行います。ネットワークインストールごとに 1 つのライセンスサーバーを、ライセンス発行対象であるマシン上で、実行する必要があります。

### **Telelogic Synergy クライアント**

Telelogic Synergy クライアントは、ユーザー インターフェイス プロセスです。

### **Telelogic Synergy サーバー**

Telelogic Synergy サーバーは、データベース サーバー、エンジン、クライアント、ライセンス マネージャ、オブジェクト レジストラ、ルーター、管理ツール、ウェブ サーバーなど、すべての Telelogic Synergy コンポーネントのホストとして機能します。

### **Telelogic Synergy データベース**

Telelogic Synergy データベースは、制御ファイル、変更依頼、およびその属性を格納する、オブジェクト指向のレポジトリです。ファイルの属性には、ファイルのソースと作成日、他のファイルとの関連性などの多数の属性が含まれます。

### **Telelogic Synergy データベースサーバー**

データベース サーバーは、Telelogic Synergy データベースのホストとして機能します。

### **Telelogic Synergy ヘルプ サーバー**

Telelogic Synergy ヘルプ サーバーは、ウェブベースの Telelogic Synergy ヘルプ (Windows クライアントのインストール イメージ) および Windows クライアント インストールに使用できる自動更新プロセスのホストとして機能します。

エンジン サーバー	エンジン サーバーは、Telelogic Synergy クライアントと Telelogic Synergy データベース間の通信を行うエンジン プロセスのホストとして機能します。
オブジェクト レジストラ	オブジェクト レジストラは、各ユーザーのデータベースの表示を常に最新の状態に維持するため、Telelogic Synergy のデータベース オブジェクトの変更をすべて追跡して通知します。データベース ホストごとに1つのオブジェクト レジストラを実行する必要があります。
ルーター	ルーターは、CM プロセス間の通信を管理します。ネットワーク インストールごとに1つのルーターを実行する必要があります。
ワークエリア	ワークエリアは、ファイルをチェックアウトしたときに Telelogic Synergy によってファイルがコピーされるファイルシステム内の場所です。ワークエリアはネットワーク ファイル システム内の任意の場所に確保できます。  ファイルを更新すると、Telelogic Synergy はワークエリア内の変更をデータベースと同期させます。

# 3

## Telelogic Synergy インストール チェックリスト

Telelogic Synergy のインストール、実行には以下に示された手順のチェックリストをお使いください。

### インストール前の作業

Telelogic Synergy ソフトウェア インストールの準備

- 1 ページの「はじめに」を読みます。
- *Readme* を確認します。
- 11 ページの「インストール前の作業」を読みます。特に 13 ページの「サーバー インストール計画」と 18 ページの「クライアント インストール計画」に注意を払います。
- 計画ワークシートの必要項目に記入します。  
サーバーインストールの領域を計画する方法は、16 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域計画」を参照してください。  
クライアントインストールの領域を計画する方法は、19 ページの「クライアント領域計画」を参照してください。
- 以前のリリースからアップグレードする場合は、『Telelogic Synergy アップグレードガイド Windows 版』を参照してください。

## インストール

**注記：** Telelogic Synergy を複数のマシンまたはプラットフォームにインストールする場合（UNIX と Windows の両方にインストールする場合など）、Telelogic Synergy ルーターを実行するマシンに最初にインストールします。Telelogic Synergy を UNIX にインストールする場合は、『Telelogic Synergy インストールガイド UNIX 版』を参照してください。

## ライセンス

Telelogic Synergy をインストールする前に、Telelogic Synergy ライセンス ソフトウェアをインストールします。

ライセンス ソフトウェアのインストール方法については、『Telelogic Lifecycle Solutions ライセンス ガイド』を参照してください。このドキュメントは、Telelogic Lifecycle Solutions Kit とともに提供されます。あるいは、サポート ウェブ サイト(<https://support.telelogic.com/synergy>)の Lifecycle Solutions セクションからダウンロードできます。

## Telelogic Synergy

Telelogic Synergy ソフトウェアをインストールします。何をインストールすべきか不確かな場合は、11 ページの「インストールするもの」を参照してください。

- メイン Windows サーバーをインストールする方法は、25 ページの「メイン Windows サーバーのインストール」を参照してください。
- 追加 Windows サーバーをインストールする方法は、43 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」を参照してください。
- カスタム インストールを行う方法は、56 ページの「カスタム インストールの実行」を参照してください。
- コンパクト クライアントをインストールする方法は、62 ページの「コンパクト クライアントのインストール」を参照してください。

## インストール後の作業

Telelogic Synergy ソフトウェアをインストールした後で、以下のことを行ってください。この作業では、『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』を参照する必要があります。このドキュメントは Telelogic Synergy サポート ウェブ サイト (<https://support.telelogic.com/synergy>)、および DVD のドキュメント セクションに用意されています。

- データベースをアンパックする。

この手順は Telelogic Synergy セッションを開始する前に行う必要があります。『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「アンパックによる作成」セクションを参照してください。

- データベースにユーザーを追加する。

この手順は『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「Telelogic Synergy データベースへのユーザー追加」セクションを参照してください。

- 必要に応じて、ビルドマシンを構成する。

これは、インストール エリアまたはデータベースに対して行うことができます。この手順は『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「ビルドマシンの設定」セクションを参照してください。

- 必要に応じて、Telelogic Change をインストールして構成する。

これは、チームが Telelogic Change ツールを使用する場合にのみ行う必要があります。このツールについては『Telelogic Change インストールガイド Windows 版』、『Telelogic Change インストールガイド UNIX 版』および Telelogic Change オンライン ヘルプに説明されています。

- ローカルタイプのカスタマイズについてサイトのタイプデベロッパと調整を行う。タイプの作成と変更については、Telelogic Synergy CLI ヘルプまたは Telelogic Synergy Classic ヘルプで説明されています。

- データベース バックアップ計画を作成する。

これを行うためのガイドラインは『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「Telelogic Synergy データベースのバックアップとリカバリ」セクションを参照してください。

- Windows クライアント インストールに URL を公開する。

Telelogic Synergy 6.6a クライアントのインストールが必要な Windows ユーザーにこの URL を知らせてください。

## トラブルシューティング

Telelogic Synergy の使用中に起こりうる問題、およびその解決方法については、*Readme* を参照してください。*Readme* の場所については、1 ページの「**Readme**」を参照してください。

技術サポート テクニカル ブリテンを読むには、Telelogic Synergy サポート ウェブ サイト (<https://support.telelogic.com/synergy>) のナレッジベースを参照してください。

# 4

## インストール前の作業

この章では Telegic Synergy ソフトウェアをインストールするための準備について説明します。この章の内容は、インストール中に決定する事柄についての手助けとなるので、注意深くお読みください。

### インストールするもの

以下の製品およびコンポーネントのインストールは Telegic Synergy 製品 DVD から行うことができます。

- **メイン Windows サーバー (Main Server)**

Windows サーバーのクライアント、エンジン、データベース サーバー、管理ツール、オブジェクト レジストラ、ライセンス マネージャおよびルーターが含まれます。

- **追加 Windows サーバー (Additional Server)**

Windows サーバーのクライアント、エンジン、データベース サーバー、管理ツールおよびオブジェクト レジストラが含まれます。

- **カスタム インストール**

インストールしたい Telegic Synergy のコンポーネントを選択できます。

- **コンパクト クライアント (Compact Client)**

クライアントのみが含まれます。クライアントのみが必要な場合にはこの方法が最適です。このインストールには、Telegic Synergy と Telegic Synergy Classic のすべてのグラフィカル ユーザー インターフェイスが含まれます。

Telegic Synergy のインストールに加えて、Telelogic License Server もインストールする必要があります。これは製品のインストールプロセスとは別手順で行います。詳細については、8 ページの「ライセンス」を参照してください。

### カスタム サイトごとにインストールするもの

Telegic Synergy Windows サーバーを使用するすべてのカスタム サイトは、ネットワークにメイン Windows サーバーをインストールする必要があります。一般的に、メイン サーバーは Windows サーバー マシンにインストールされます。このインストール (25 ページの「メイン Windows サーバーのインストール」を参照) により、以下のものを含む、Telegic Synergy セッションを実行するために必要なものがすべて提供されます。

- Telegic Synergy サービス

これらのサービスにはルーター、ライセンス マネージャ、オブジェクト レジストラ、エンジン スタートアップ サービスが含まれます。

- データベース サーバー
- クライアント

チームが 1 つ以上のデータベース サーバーを必要とする場合は、別の Windows サーバー マシンに追加のデータベースをインストールできます。

Telegic Synergy Windows サーバーの代わりに Telegic Synergy UNIX サーバーをインストールできます。Telegic Synergy UNIX サーバーのインストールについては『Telegic Synergy インストールガイド UNIX 版』を参照してください。

サーバーは、サーバーにアクセスするクライアントより前にインストールする必要があります。

**注記：** Telegic Synergy では、Telegic Synergy Windows サーバーで Windows ブラウザ サービスを有効にする必要があります。そのように設定しないと、ユーザーが Informix-Admin グループのメンバーになる必要がある ccmsrv オプションは動作しません。

## ユーザーごとにインストールするもの

Telegic Synergy セッションを開始するには、ユーザーのマシンにコンパクト クライアントをインストールするか、クライアント インストールが共有ネットワークドライブからアクセス可能である必要があります。ユーザーは、カスタム インストール オプションを使用してクライアントをインストールすることもできます。

以下のセクションでは、Windows 2003 または Windows XP Professional で実行するユーザーに対してインストールする必要があるものについて説明します。

### Windows ユーザー

Windows を使用するユーザーには、以下の選択肢があります。

- **コンパクト クライアントのインストール**

ほとんどの Windows ユーザーは、ローカル マシンにコンパクト クライアントをインストールします。コンパクト クライアントをインストールすると、ユーザーのマシンではクライアント プロセスのみが実行され、エンジン プロセスは Telegic Synergy サーバーまたはエンジンを実行するよう設定された他のシステムで実行されます。



- **共有ネットワーク ドライブのクライアント インストールへのアクセス**

各ユーザーのマシンのコンパクト クライアントをインストールする代わりに、ネットワーク ドライブ上の 1 つの共有インストールにアクセスさせる方法もあります。

メイン Windows サーバーをインストール後、ネットワーク ドライブ上にコンパクト クライアントをインストールしてネットワークで共有するコンパクト クライアントを作成できます。各 Windows ユーザーは、ネットワーク インストールがあるディレクトリから **Telegic Synergy** プログラムを起動できます (ネットワーク インストールで使用したいプログラムのデスクトップ ショートカットを作成できます)。

- **カスタム クライアント インストール**

ユーザーに他のローカル マシンでエンジンを実行させたい場合があります。この場合は、カスタム インストール オプションを使用して、ユーザーの別のマシンにクライアント、エンジン、およびエンジン スタート サービス (ESS) をインストールできます。

## サーバー インストール計画

以下のセクションではメイン Windows サーバーと追加 Windows サーバーのインストールをどのように計画するかを説明します。カスタム インストール要件についても説明します。実行すべき適切なインストール タイプのセクションをお読みください。

## メインと追加 Windows サーバー マシンの要件

下表に、最小システム要件を示します。次ページの表には、異なるインストールタイプの Telegic Synergy を実行するためのサーバー マシンの最小構成を示します。インストールするクライアントによっては、以下の表に示された要件および推奨構成以上の性能や領域が必要になる場合があります。16 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域計画」に示すワークシートの確認時に、これらの表内の情報を使用します。

要件タイプ	インストール タイプ	要件
オペレーティング システム	メイン / 追加サーバー	対応するオペレーティング システムのリストを、 <i>Readme</i> で確認してください。
ネットワーク プロトコル	メイン / 追加サーバー	TCP/IP
ディスク領域	全てのインストール — Telegic Synergy ファイル システム 要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Telegic Synergy データベースファイルシステム要件 : — Telegic Synergy データベースに移行するデータのサイズに従ってディスク領域を割り当てます。また、このディスク領域でのデータの増大を考慮し、余裕のある領域を割り当てるように計画してください。データベースは NTFS ファイル システム パーティション上にある必要があります。</li> <li>2. informix チャンク ファイル要件 : — ユーザー数に従ってディスク領域を割り当てます。ファイルはローカル NTFS ファイル システム パーティションにある必要があります。</li> <li>3. ユーザー ワークエリアのディスク領域 : — 各 Telegic Synergy ユーザーが作業する上で必要なデータの全コピーを保存するための、十分なディスク領域が必要です。</li> </ol>

要件タイプ	インストールタイプ	要件
ディスク領域	メインサーバー 追加サーバー カスタム	Telelogic Synergy メイン Windows サーバーをインストールするには： — Windows マシンで 525 MB のディスク領域が必要です。 Telelogic Synergy 追加 Windows サーバーをインストールするには： — Windows マシンで 325 MB のディスク領域が必要です。 カスタム インストールを実行するには (56 ページの「カスタム インストールの実行」参照)、インストールする構成にあわせてディスクおよびメモリ要件を追加します。
ライセンスファイル	メインサーバー/ カスタム	有効な Telelogic ライセンスファイルが必要です。 Telelogic License Server のインストールの詳細については、8 ページの「ライセンス」を参照してください。

以下に、最小構成を示します。

要件タイプ	インストールタイプ	最小構成
ハードウェア	メイン/追加サーバー	Xeon 2 GHz デュアル プロセッサ以上
メモリ (マシン毎)	メイン/追加サーバー	1.5 GB (最小要件)
仮想メモリ	メイン/追加サーバー	物理 RAM の 2 倍
リポジトリ DB 領域	メイン/追加サーバー	2 GB パーティション

## メインおよび追加 Windows サーバー用の領域計画

以下のワークシートは、インストールするメイン/追加 Windows サーバー用の領域割り当て方法を説明したものです。

インストールエリアの構成							
<p>インストール時にプログラムとデータを以下のように分離してください。</p> <p>1) Telegic Synergy ソフトウェアを 1 つのディレクトリにインストール、2) データベースのアンパック時に別のディレクトリに Telegic Synergy データベースをインストール、3) データベース サーバーのチャンク ファイルを別のディレクトリにインストールします。</p> <p>以下はインストール後の 3 つのドライブと 3 つのディレクトリを示した例です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. C:¥Program Files¥Telelogic¥Telegic Synergy 6.6a (Telegic Synergy /Informix 実行形式ファイルを含む)</li> <li>2. E:¥ccmdb (NTFS ファイル システム パーティション上の Telegic Synergy データベース ディレクトリ)</li> <li>3. F:¥informix_chunkfiles (ローカル NTFS ファイル システム パーティション上のデータベース サーバー チャンク ファイル (rootdbs、tempdbs、log、および ccm) を含む。詳細については 20 ページの「ディスク領域注意事項」を参照)</li> </ol> <p style="text-align: center;"><b>注記：</b>ディレクトリ 2 と 3 は、データが増大する可能性があります。メイン/追加サーバーをインストールする前に、このワークシートを完成させることで増分を計画してください。</p>							
領域要件例							
<p>Telegic Synergy がインストールされたシステム：</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">Telegic Synergy メイン サーバー インストール エリア：</td> <td style="text-align: right;">525 MB (実行形式ファイル)</td> </tr> <tr> <td>informix_chunkfiles:</td> <td style="text-align: right;">91 MB (20 ユーザー)</td> </tr> <tr> <td>ccmdb 領域：</td> <td style="text-align: right;">(100 MB、データベース内のプロジェクトのサイズによってさらに大きい値)</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;"><b>計： 716 MB 最小値</b></p>		Telegic Synergy メイン サーバー インストール エリア：	525 MB (実行形式ファイル)	informix_chunkfiles:	91 MB (20 ユーザー)	ccmdb 領域：	(100 MB、データベース内のプロジェクトのサイズによってさらに大きい値)
Telegic Synergy メイン サーバー インストール エリア：	525 MB (実行形式ファイル)						
informix_chunkfiles:	91 MB (20 ユーザー)						
ccmdb 領域：	(100 MB、データベース内のプロジェクトのサイズによってさらに大きい値)						

領域要件	
1. Telegic Synergy インストール (実行形式ファイル) :	325 MB または 525 MB
2. informix_chunkfiles (データファイル) :	
インストール デフォルト (平均 3.5 MB / ユーザーを基準)	
20ユーザー (デフォルト) :	91MB _____ MB
15 ユーザー :	68 MB
10 ユーザー :	48 MB
3. ccldb :	
Telegic Synergy データベースは、ユーザーが新しいデータを以降または作成すると拡張されます。	
そのため、ccldb ファイル システムのディスク領域の増分を計画してください。	
ccldb ファイル システムは共有 NTFS ファイル システムにある必要があります。	
データベースあたりの領域 :	100MB最小値
	計: _____ MB

## クライアント インストール計画

以下のセクションでは標準クライアントまたはコンパクト クライアントのインストールをどのように計画するかについて説明します。

### クライアント マシンの要件

下表に、クライアント マシンの最小要件を、その次の表に推奨値を示します。インストールするクライアントによっては、以下の表に示された要件および構成以上の性能や領域が必要になる場合があります。

要件タイプ	インストールタイプ	要件
オペレーティングシステム	コンパクト クライアント	対応するオペレーティング システムのリストを、 <i>Readme</i> で確認してください。
ディスク領域 (Windows マシン 毎)	コンパクト クライアント	125 MB
ネットワーク プロトコル	コンパクト クライアント	TCP/IP

以下に、最小構成を示します。

要件タイプ	インストールタイプ	最小構成
ハードウェア	コンパクト クライアント	Pentium4、1 GHz 以上
メモリ	コンパクト クライアント	512 MHz (最小要件)、1 GB 以上が最適
メモリ (エンジンサーバー マシン 毎)	カスタム (“エンジン”のみ)	各エンジン マシンに 256 MB + エンジン マシンで実行するエンジン毎に 10 MB
仮想メモリ	コンパクト クライアント	物理メモリの 2 倍 (最小要件)、物理メモリの 3 倍が最適

## クライアント領域計画

以下のワークシートは、Telegic Synergy Windows クライアント ソフトウェア用の領域割り当て方法を説明したものです。

インストール エリアの構成											
<p>以下は Telegic Synergy Windows クライアントのデフォルトインストールエリアです。この領域は、インストール時にデフォルトのままにするか、変更できます。                      C:¥Program Files¥Telelogic¥Telegic Synergy 6.6a                      (Windows クライアント用の Telegic Synergy 実行形式ファイルを含みます。)</p>											
領域要件例											
<p>Telegic Synergy クライアントをインストールしたシステム</p> <table> <tr> <td>Telegic Synergy インストールエリア :</td> <td>125 MB</td> </tr> <tr> <td>ユーザー ワークエリア (ユーザー マシンのユーザー毎)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>この合計はデータサイズによって異なります。</td> <td>100 MB</td> </tr> <tr> <td>ワークエリアは共有ネットワーク ドライブに取ることもできます。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td><b>計 : 225 MB</b></td> </tr> </table>		Telegic Synergy インストールエリア :	125 MB	ユーザー ワークエリア (ユーザー マシンのユーザー毎)		この合計はデータサイズによって異なります。	100 MB	ワークエリアは共有ネットワーク ドライブに取ることもできます。			<b>計 : 225 MB</b>
Telegic Synergy インストールエリア :	125 MB										
ユーザー ワークエリア (ユーザー マシンのユーザー毎)											
この合計はデータサイズによって異なります。	100 MB										
ワークエリアは共有ネットワーク ドライブに取ることもできます。											
	<b>計 : 225 MB</b>										
領域要件											
<p>1. Telegic Synergy 6.6a インストールエリア (コンパクトクライアント) : 125 MB</p> <p>2. ユーザー ワークエリア領域要件 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 各ユーザーのワークエリアはユーザーが書き込めるディレクトリである必要があります。ユーザーは、<b>Telegic Synergy Startup Info</b> ダイアログボックスの <b>Home Directory</b> フィールドでワークエリアをどこにとるかを定義できます。このダイアログボックスは Telegic Synergy セッションを開始したときに表示されます。</li> <li>— 領域は全てのビルド/コンパイル サーバーから見える必要があります。各ワークエリアあたりの領域、ユーザー毎 :</li> </ul> <table> <tr> <td>_____ X</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>MB</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td><b>計 : _____ MB</b></td> </tr> </table>		_____ X	100	MB			<b>計 : _____ MB</b>				
_____ X	100										
MB											
	<b>計 : _____ MB</b>										

## システムの準備

データベース サーバーを作成し、データベース サーバー プロセスを開始する前に、システムが適切にデータベース サーバーとして設定されているかを確認するために以下のセクションをお読みください。

### ディスク領域注意事項

データベース サーバーをインストールするとき、setup プログラムは Informix チャンクファイルのある場所を尋ねてきます (34 ページのステップ 17 参照)。チャンク ファイルを置く場所を選択するときは、以下のことに気を付けてください。

- チャンクファイルは、誤って削除されないような場所に置いてください。チャンク ファイルはデータベース サーバー マシンのローカル ディスクに置く必要があります。

**注意!** データベース サーバーにチャンク ファイルを作成したら移動しないでください。移動すると、データベース サーバーが動作しなくなり、データを失う可能性があります。

- ローカル NTFS ファイル システムを使用する必要があります。
- 将来、既存のデータベース サーバーの領域を拡張したい場合があります。その場合は、追加のチャンク ファイルを作成する必要があります。これを行う手順は、『Telegic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「ccmsrv expand」を参照してください。

デフォルトで、Telegic Synergy は以下の基準に従ってデータベース用の初期チャンク領域 (dbspace) を作成します。

- root、log、および temp へは、ユーザー数 × 1MB を使用。
- 初期 ccm dbspace へはユーザー数 × 2MB を使用。

**注記:** 上記基準はデータベース用の初期チャンク領域の大まかな領域にすぎません。ccm dbspace 領域は、すべてのユーザーのメタデータが格納され、領域が増大してゆくことを考慮して、十分な大きさを割り当てます。



## Services ファイルの確認

データベース サーバーは Services ファイルを必要とします。ファイルは、`%windir%\System32\drivers\etc\services` にあります。ない場合は、システム管理者に問い合わせしてから、データベース サーバーのインストールプロセスを開始してください。

Services ファイルにはネットワーク上の既知の各サービス用の単一エントリが含まれています。各行にはサービス名、ポート番号、プロトコルが含まれます。名前のエイリアス（別名）はオプションです。Services ファイルには、ネットワーク上の既知のサービスに関する情報が含まれています。ファイルの構文は、サービス名 ポート番号/プロトコル [エイリアス] [# コメント] です。

Telegic Synergy インストール プログラムはメイン Windows サーバー、追加 Windows サーバー、エンジンをインストールするときに自動的に Services ファイルを更新します。ポート番号を尋ねられます。ほとんどの場合、表示されるデフォルトの値を変更する必要はありません。

以下は Services ファイルのエントリの例です。

```
turbo 1526/tcp #Informix-OnLine Dynamic Server
```

説明：

turbo は、Informix ネットワーク サービスの名前です。

1526 はポート番号、tcp はプロトコル名です。TCP/IP ポート番号は、Telegic Synergy 製品を実行する全てのホストで同じである必要があります。

# コメントは、追加する任意の情報です。

Services ファイルが存在し、ネットワークに対して正しい構成になっている場合は、Telegic Synergy を実行するためのユーザーによる変更は必要ありません。疑問点があるときはシステム管理者に質問してください。

**注記：**このサービスは TCP または UDP ポート サービスを参照します。これらのサービスは『Telegic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「サービスの監視」セクションで説明されている Windows サービスとは異なり、Windows サービス マネージャによって設定されます。

## Telegic Synergy アドミニストレータの作成

Telegic Synergy 製品のインストールを開始する前に、`ccm_root` などの、CM アドミニストレータになるユーザーを作成する必要があります。このユーザーは CM 管理用に確保します。このユーザーには特殊な権限を与えるので、開発者またはビルド マネージャ ロールのユーザーは適用しません。

## Telelogic License Server のインストール

Telelogic Synergy では、Telelogic License Server を使用します。Telelogic License Server は、FLEXnet ベースのライセンス サーバーで、Synergy、DOORS、および Tau 製品のライセンス管理に使用されます。Telelogic License Server は、Telelogic Synergy を実行するためにここで説明しているインストール プロセスとは別にインストールする必要があります。Telelogic License Server をインストールしてから、Telelogic Synergy 製品をインストールする必要があります。

ライセンスのインストールの詳細については、8 ページの「ライセンス」を参照してください。

# 5

## サーバーのインストール

この章では Telelogic Synergy メイン サーバー ソフトウェアのインストール方法について説明します。各サイトでデータベースのアンパックを行う前にこのインストールを完了する必要があります。この章では追加サーバーのインストール方法やカスタム インストールについても説明します。

**注記：** Telelogic Synergy ソフトウェアは、サポートされる任意の Windows サーバーにインストールできます。Readme ファイルを読むか、Telelogic Synergy サポート ウェブ サイトでサポートされるハードウェアとオペレーティング システムのリストを確認してください。このドキュメントではサーバーについて述べるときに一般的な言葉の「Windows サーバー」が使用されます。

### サーバー ソフトウェアをインストールする前に

メイン Windows サーバーと追加サーバーは CM アドミニストレータまたはシステム管理者がインストールする必要があります。

Telelogic Synergy ソフトウェアを最初にインストールする場合は以下を行ってください。

- 11 ページの「インストール前の作業」を読みます。
- ライセンス情報を準備してください。『Telelogic Lifecycle Solutions ライセンス ガイド』の「サーバー ライセンス ファイルの検索」を参照してください。
- Windows サーバー マシンが 14 ページの「メインと追加 Windows サーバー マシンの要件」にリストアップされたシステム要件を満たしているか確認してください。
- 16 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域計画」を読みます。

追加サーバーをインストールする場合は以下を行います。

- 43 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」を読みます。

## Telelogic Synergy Windows サーバーのインストール

メイン Windows サーバー、追加サーバー、またはカスタム インストールを行うことができます。それぞれのインストールは固有なものです。各手順は以下のページにあります。

- 25 ページの「メイン Windows サーバーのインストール」
- 43 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」
- 56 ページの「カスタム インストールの実行」

インストールを行う前に以下のことに注意してください。

- Telelogic Synergy ソフトウェアをインストールしたことがなく、どのタイプのインストールを行えばよいか分からない場合は、11 ページの「インストール前の作業」をお読みください。
- メイン サーバーをインストールした後、次に何を行うかが分からない場合は、7 ページの「Telelogic Synergy インストール チェックリスト」を参照してください。
- メイン Windows サーバーまたは追加サーバーをインストールした後、クライアントをインストールするには、62 ページの「コンパクト クライアントのインストール」を参照してください。

## メイン Windows サーバーのインストール

以下のインストール手順は、コンパクト クライアント、エンジン、データベース サーバー、管理ツール、オブジェクト レジストラ、ライセンス マネージャ、およびルーターを含むメイン Windows サーバーのインストールについて説明しています。

**注記：** Windows サーバーをインストールするには Informix の Telelogic Synergy を使用するライセンスが必要です。

メイン Windows サーバーを追加サーバーやクライアントの前にインストールする必要があります。メイン サーバーをインストールしていて、さらにサーバーをインストールする必要がある場合は、43 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」を参照してください。

1 つの Telelogic Synergy ライセンスファイルにつき、1 つのメイン Windows サーバーのみインストールできます。詳細については、28 ページの「サーバー ライセンスの設定」を参照してください。

メイン Windows サーバーをインストールするには、以下の要件を満たす必要があります。

**ユーザー要件：** ローカル アドミニストレータ グループのメンバーであること。

ローカル NTFS ファイル システム パーティションへの書き込み権限を持っていること。

Active Directory ユーザーであること。

**OS 要件：** readme ファイルまたは Telelogic Synergy サポート ウェブ サイトで確認してください。

**前提条件：** %windir%\System32\drivers\etc\services  
ファイルが書き込み可能であること。  
ドメインにログオン可能であること。

**注記：** メイン サーバーと追加サーバーはドメイン環境にインストールする必要があります。

メイン Windows サーバーをインストールするには、以下のステップを行います。

1. Windows ドメインにログオンします。
2. Telelogic Synergy インストーラを開始します。
  - DVD からインストールする場合は、Telelogic Synergy Windows サーバーが含まれている DVD を DVD ドライブに挿入します。Windows タスクバーで **スタート** ボタンを右クリックし、ショートカットメニューを表示します。エクスプローラ をクリックし、Windows エク

スプローラを開きます。

DVD\_drive:¥win\_servers¥synergy\_server に移動し、  
setup.exe をダブルクリックして、**ウェルカム** ダイアログボックスを表示します。

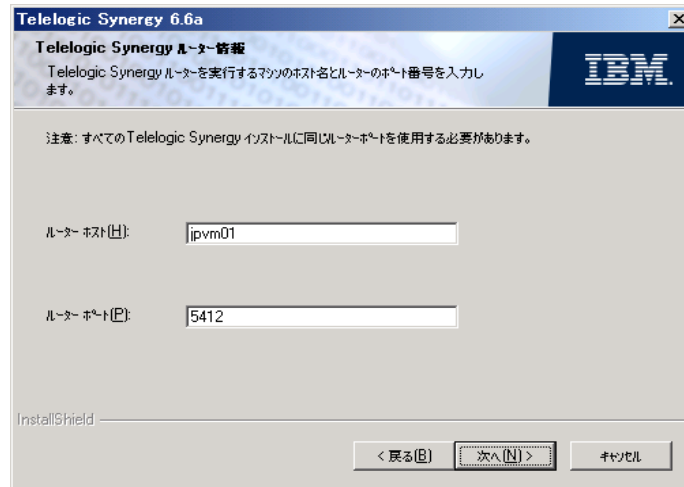
- ダウンロードからインストールする場合は、synergy66a.exe をダブルクリックして**ウェルカム** ダイアログボックスを表示します。
3. **次へ**をクリックして、**使用許諾契約**ダイアログボックスを表示します。ライセンス事項を確認して受け入れます。
  4. **次へ**をクリックして、**インストール先の選択**ダイアログボックスを表示します。デフォルトのインストール場所を受け入れるか、**参照** ボタンをクリックして、別の場所を指定できます。
  5. **次へ**をクリックして、**セットアップのタイプ**ダイアログボックスを表示します。

ドメインユーザーであり、ローカルアドミニストレータグループのメンバーである場合、**セットアップのタイプ**ダイアログボックスが表示されます。**メインサーバー**を選択して**次へ**をクリックし、ステップ6に進みます。

メインサーバーは、ネットワーク上に1つのみ存在できます。



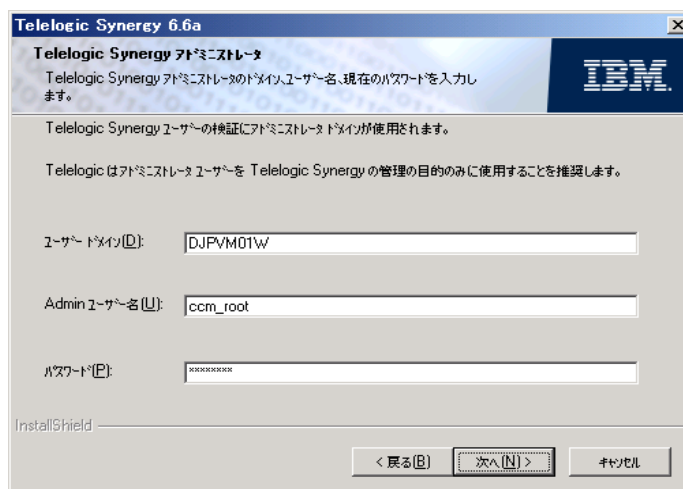
ドメイン ユーザーではなく、ローカルアドミニストレータ グループのメンバーでもない場合は、コンパクト クライアントのインストール用の **Telelogic Synergy ルーター情報** ダイアログボックスが表示されます。



これを解決するには以下を行ってください。

- a. **キャンセル**をクリックし、setup プログラムを終了します。
  - b. ローカル アドミニストレータ グループのメンバーであるドメイン ユーザーとしてログオンします。
  - c. メイン Windows サーバーのインストールを開始します (25 ページの「メイン Windows サーバーのインストール」を参照)。
6. 必要に応じて、**Telelogic Synergy アドミニストレータ**ダイアログボックスで、ドメイン名を**ユーザー ドメイン**ボックスに入力します。  
**Admin ユーザー名とパスワード**を、該当するボックスに入力します。

インストールを実行する前に、ドメインおよび Admin ユーザーがすでに存在している必要があります。

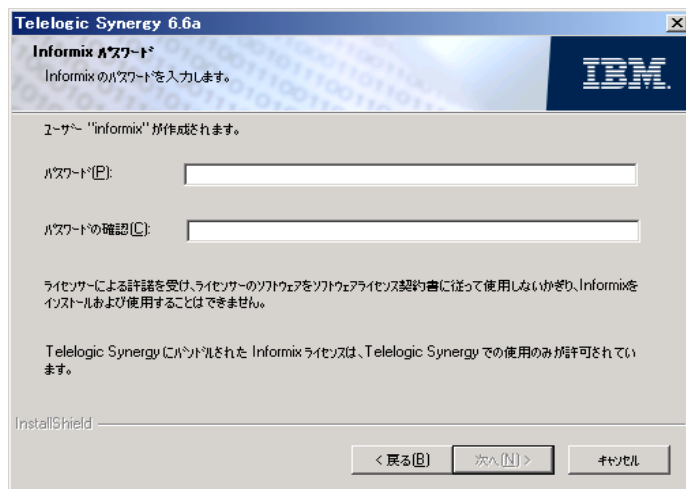


7. 次へをクリックして、**Informix** パスワード ダイアログボックスを表示します。

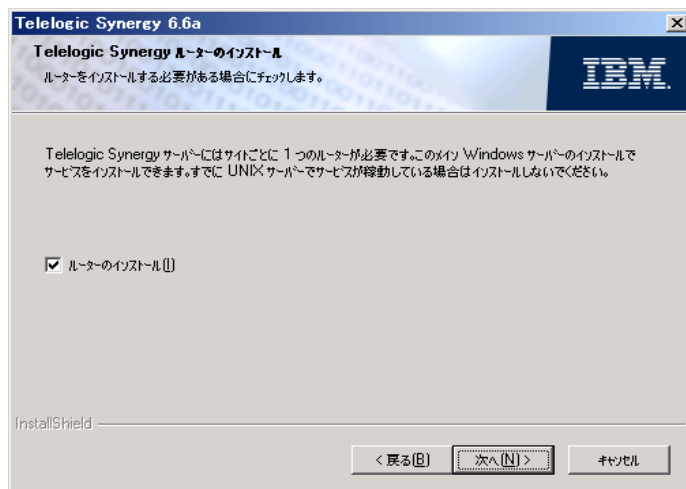
- すでにユーザー *informix* を取得している場合：  
*informix* ユーザーのパスワードを入力するように指示されます。入力したパスワードがインストールプログラムによって確認されます。  
ステップ 8 に進みます。
- ユーザー *informix* をまだ取得していない場合：  
インストールプログラムが *informix* ユーザーを作成します。ユーザー *informix* は **Informix-Admin** グループのメンバーでデータベース サーバー コマンドを実行する権限を持ちます。この場合、以下のダイアログボックスのように、パスワードの入力と、確認のためパスワードの再入力を指示されます。



*informix* ユーザーのパスワードをパスワード ボックスとパスワードの確認ボックスに入力します。



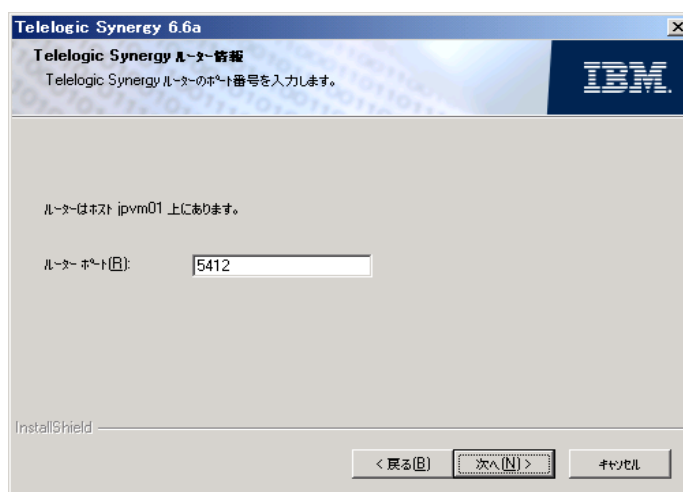
8. 次へをクリックして、Telelogic Synergy ルーターのインストール ダイアログボックスを表示します。



9. ルーターをインストールしていない場合は、**ルーターのインストール**を選択します。Telelogic Synergy サーバーは、サイトごとに 1 つのルーターを必要とします。

ルーターがすでに UNIX で実行されている場合は、それらを Telelogic Synergy Windows サーバーにインストールする必要はありません。UNIX で実行されているこれらのサービスを共用できます。

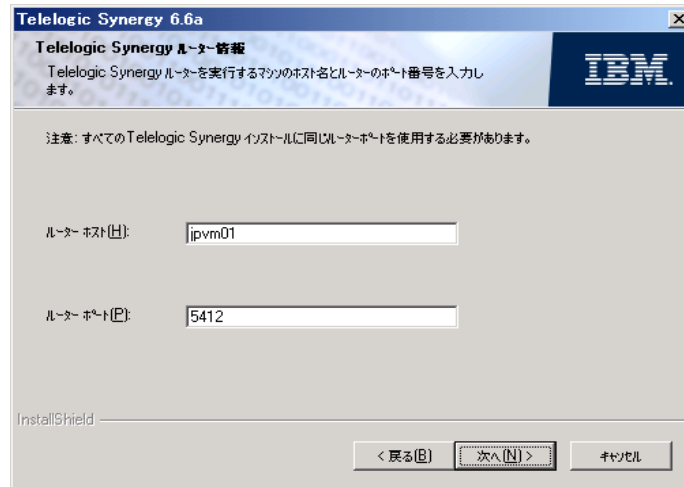
10. **次へ** をクリックして、**Telelogic Synergy ルーター情報** ダイアログボックスを表示します。ステップ 9 で **ルーターのインストール** を選択していた場合は、ステップ a を実行します。選択していない場合は、ステップ b を行ってください。
- a. ルーターとライセンスマネージャをインストールする場合は、**Telelogic Synergy ルーター情報** ダイアログボックスでルーターのポート番号のみを入力するよう要求されます。



デフォルトでは、Telelogic Synergy ルーターが使用するポート番号は 5412 です。このポート番号がすでに使用されている場合は、**ルーターポート** ボックスのポート番号を変更してください。ポート番号 5412 が使用可能か不確かな場合は、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の **Services** ファイルを参照してください。詳細については、21 ページの「**Services** ファイルの確認」を参照してください。

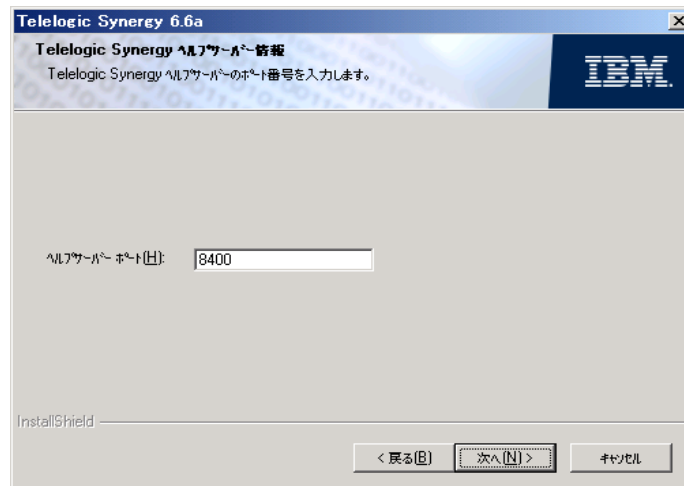
- b. ルーターとライセンスマネージャをインストールしない場合は、**Telelogic Synergy ルーター情報** ダイアログボックスでルーターのホスト名およびポート番号を入力するよう要求されます。デフォルトで

は、Telelogic Synergy ルーターは 5412 を使用します。ポート番号はルーター マシンで指定したものと同一である必要があります。



デフォルトを変更する必要がある場合は、ルーターのホスト名とポート番号を適切なボックスに入力してください。

11. 次へをクリックして、**Telelogic Synergy ヘルプ サーバー情報** ダイアログボックスを表示します。ヘルプ サーバーは、Telelogic Synergy ヘルプ ページを提供して、ウェブベースのインストールを展開するウェブ サーバーです。Telelogic Synergy ではルーター ホスト システムで動作する 1 つのヘルプサーバが必要です。



デフォルトのヘルプ サーバー ポート番号 (8400) がすでに使用されている場合は、**ヘルプ サーバー ポート** ボックスでポート番号を変更します。ポート番号 8400 が使用可能か不確かな場合は、ディレクトリ %windir%\System32\drivers\etc\services の Services ファイルを参照してください。詳細については、21 ページの「Services ファイルの確認」を参照してください。

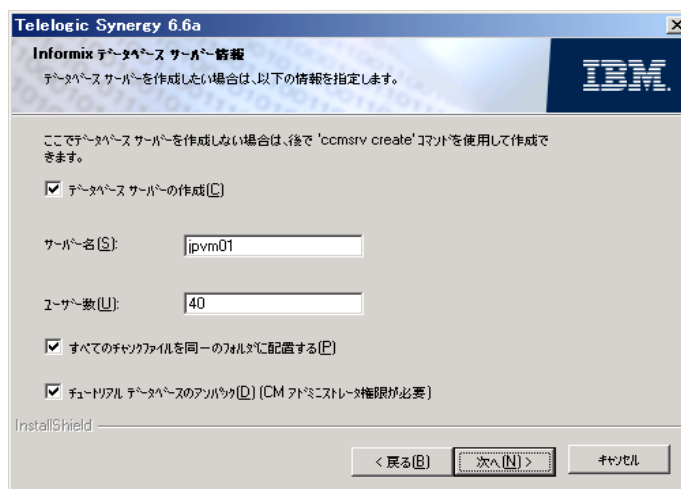
12. **次へ**をクリックして、**Informix 情報**ダイアログボックスを表示します。



13. デフォルトの Informix ポート番号 (1526) がすでに使用されている場合は、**Informix ポート** ボックスでポート番号を変更してください。ポート番号 1526 が使用可能か不確かな場合は、ディレクトリ %windir%\System32\drivers\etc\services の Services ファイルを参照してください。詳細については、21 ページの「Services ファイルの確認」を参照してください。

14. **次へ**をクリックして、**Informix データベース サーバー情報**ダイアログボックスを表示します。

15. Informix データベース サーバーを作成します。



すべての Informix データベース サーバー ダイアログのデフォルト設定は、単に設定例として提示されます。ダイアログのデフォルト設定をベースに 16 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域計画」で計画した設定を行ってください。このセクションを完了していない場合は、これらのダイアログでの設定を行う前に、このセクションでの計画を完了してください。

- 旧リリースからのアップグレードの場合は、**データベースサーバーの作成**を選択しないでください。その他の場合はすべて、このチェックボックスを選択します。

**データベースサーバーの作成**を選択しないと、新しく Informix ソフトウェアをインストールしますが新しいデータベースサーバーは作成されません。

**注意！** 同じマシンで旧リリースからアップグレードする場合、**データベースサーバーの作成**を選択すると、古いチャンクファイルが上書きされる場合があります。これはデータ損失になる可能性があります。詳細については、現在のインストールに関連するアップグレード手順を参照してください。

- データベースサーバーを作成する場合、**サーバー名**ボックスにサーバー名を入力します。あるいは、デフォルトのコンピュータ名を使用できます。
- Windows サーバー領域計画をベースに**ユーザー数**ボックスに適切なユーザー数を入力します。

- デフォルトでは、**すべてのチャンク ファイルを同一のフォルダに配置する**が選択されます。同じディレクトリにチャンク ファイルを格納したい場合はこの設定のままにします。そうでない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。詳細については 16 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域計画」のワークシートの「インストール エリアの構成」を参照してください。

チャンク ファイルについて学習するには『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベース サーバーの作成」を参照してください。

- CM アドミニストレータとしてインストールプログラムを実行しており、**データベース サーバーの作成**を選択した場合は、チュートリアル データベースを自動作成するよう設定できます。チュートリアル データベースが必要な場合は、**チュートリアル データベースのアンパック**を選択します。

チュートリアル データベースは、以下のパスに作成されます。

¥¥computername¥ccmdb¥training

computername は、インストールを実行しているマシンの名前です。ccmdb ディレクトリがない場合は、インストールプログラムが作成して共有に設定します。

16. **次へ** をクリックして、**データベース サーバー情報の作成** ダイアログボックスを表示します。

データベース サーバーを作成する場合（ステップ 15 で指定）、サーバーの作成によって既存の onconfig ファイル、SQLHOSTS レジストリ エントリ、または Informix データベースのチャンク ファイルが上書きされることを告げる警告メッセージが表示されます。**OK** をクリックして、**データベース サーバー情報の作成** ダイアログボックスを表示します。

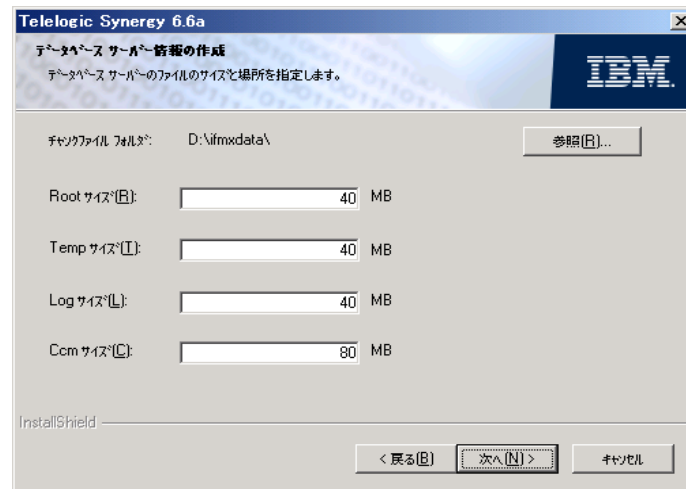
17. ステップ 15 で**すべてのチャンク ファイルを同一のフォルダに配置する**を選択した場合は、35 ページの「チャンク ファイルを同じフォルダに保存するには」の手順に従ってください。選択しなかった場合は、36 ページの「チャンク ファイルを別フォルダに保存するには」の手順に従ってください。

チャンクファイルの割り当てが不確かな場合は、20 ページの「ディスク領域注意事項」を参照してください。

**注意！** チャンク ファイルをデータベースサーバーに作成した後は移動しないでください。移動すると、データベース サーバーは動作しなくなり、データを失う可能性があります。

## チャンク ファイルを同じフォルダに保存するには

- a. データベースサーバー情報の作成ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata\` を受け入れるか、**Browse** ボタンを使用して別の場所を指定します。



- b. **Root サイズ**、**Temp サイズ**、**Log サイズ**、**Ccm サイズ**のボックスに、`dbspace` のサイズを入力します。  
各 `dbspace` のサイズを計算する方法については、『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベースサーバーの作成」を参照してください。
- c. **次へ**をクリックして、**Telelogic Synergy UNIX サーバーへの接続**ダイアログボックスを表示します。40 ページのステップ 18 に進んでください。

チャンク ファイルを別フォルダに保存するには

- a. **Root チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として **drive:\ifmxdata**を受け入れるか、**Browse** ボタンを使用して別の場所を指定します。



- b. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを**チャンク ファイル サイズ** ボックスに入力します。  
以下のダイアログで要求される 4 つの **dbspace** サイズ (rootdbs、tempdbs、log、ccm) の計算方法については、『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベース サーバーの作成」を参照してください。
- c. **次へ**をクリックして、**Temp チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。

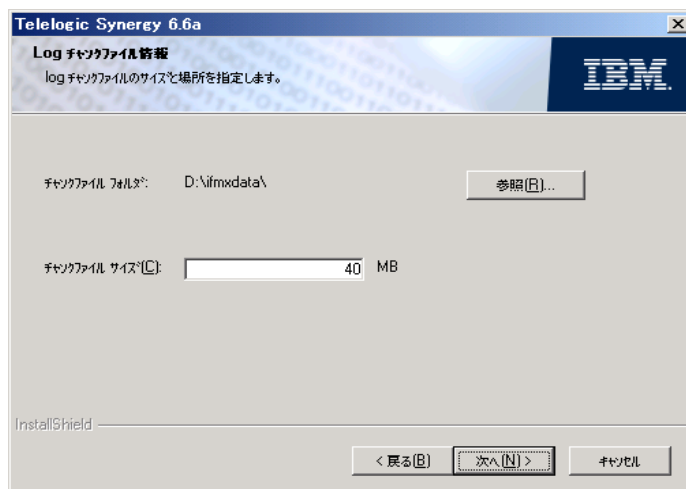


**注記：** チャンク ファイルがすでに指定ディレクトリに存在する場合、これらのファイルが上書きされることを告げる警告ダイアログボックスが表示されます。



- d. **Temp チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata\` を受け入れるか、**Browse** ボタンを使用して別の場所を指定します。
- e. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを**チャンク ファイル サイズ** ボックスに入力します。

- f. **次へ**をクリックして、**Log チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。



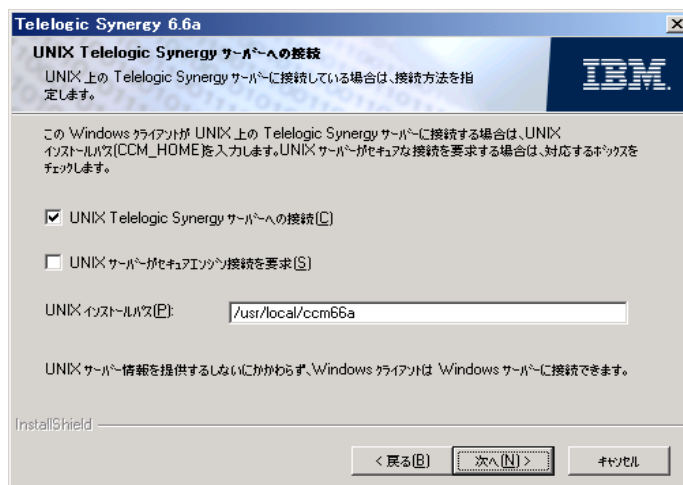
- g. **Log チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata\` を受け入れるか、**Browse** ボタンを使用して別の場所を指定します。
- h. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを **チャンク ファイル サイズ** ボックスに入力します。

- i. 次へをクリックして、**Ccm チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。



- j. **Ccm チャンク ファイル情報**ボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata\` を受け入れるか、**Browse** ボタンを使用して別の場所を指定します。
- k. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを**チャンク ファイル サイズ** ボックスに入力します。
- l. これでチャンク ファイルを別のディレクトリに保存する設定が完了しました。

18. 次へをクリックして、**UNIX Telelogic Synergy** サーバーへの接続ダイアログボックスを表示します。



- クライアントを UNIX サーバーに接続したい場合は、**UNIX Telelogic Synergy** サーバーへの接続を選択します。そうでない場合は、このチェックボックスの選択を解除してください。
- UNIX Telelogic Synergy** サーバーへの接続を選択した場合は、セキュア接続を行うかどうかを指定します。
- UNIX Telelogic Synergy** サーバーへの接続を選択した場合は、UNIX インストールパスを **CCM\_HOME** ボックスに入力します。

- **ライセンス情報**ダイアログボックスが表示されたら、適切なライセンスオプションを選択します。



ライセンス情報の取得の詳細については、21 ページの「ライセンスの取得」を参照してください。

19. **次へ**をクリックして、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスを表示します。

- a. **現在の設定**リストをスクロールして設定を確認します。設定の変更が必要な場合は、変更したいダイアログボックスが表示されるまで**戻る**をクリックします。設定を変更した後、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスに戻るまで**次へ**をクリックします。
- b. すべての設定が正しければ**次へ**をクリックします。

ファイルがシステムにロードされている間、ロードの進捗状況を示すウィンドウがスクリーン中央に表示されます。

インストールプログラムの終了後に再起動するように尋ねるダイアログボックスが表示された場合は、ダイアログボックスに表示される手順に従ってインストールを完了してください。再起動が必要かどうかはインストールプログラムが判断します。

20. **完了**をクリックします。これで、Telelogic Synergy メイン Windows サーバーのインストールは完了です。

すべての設定情報が以下のログファイルに記録されます。

C:\¥Documents and Settings¥user¥Application Data¥Telelogic¥Telelogic Synergy 6.6a install.log.

データベースをアンパックして、CM アドミニストレータとして **Telelogic Synergy** セッションを開始できます。しかし、**Telelogic Synergy** データベースにユーザーを追加するまで、データベースは使用できません。

チュートリアル データベースを作成するオプションを選択した場合は、デスクトップ ショートカット **Training for Telelogic Synergy 6.6a** を使用してそのデータベースのセッションを開始できます。CM アドミニストレータはチュートリアル データベースのユーザーですが、他のユーザーにそれを使用させる場合は、そのユーザーをデータベースに追加する必要があります。

データベースのアンパック、データベースへのユーザーの追加、**Telelogic Synergy** セッションの開始については、『**Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版**』を参照してください。

### 次に行うインストール

追加サーバーをインストールするには、43 ページの「追加 Windows サーバーのインストール」を参照してください。

カスタム インストールを行うには、56 ページの「カスタム インストールの実行」を参照してください。

コンパクト クライアントをインストールするには、62 ページの「コンパクト クライアントのインストール」を参照してください。

複数のテレロジック ライフサイクル ソリューションのクライアントをインストールする場合は、インストール メディアを参照してください。

## 自動更新プロセスのガイドライン

メイン Windows サーバーのインストールが完了したら、ユーザーは **Telelogic Synergy** クライアントをインストールできます。ただし、CM アドミニストレータが更新の必要性についてすべてのユーザーにメールを送信し、インストールを完了するためにユーザーが必要とするすべての情報を提供する必要があります。

## 追加 Windows サーバーのインストール

以下の手順は、コンパクト クライアント、エンジン、データベース サーバー、管理ツール、オブジェクト レジストラなど、追加 Windows サーバーをインストールする方法について説明しています。

**注記：**Windows サーバーをインストールするには、Informix の Telelogic Synergy を使用するライセンスが必要です。

追加サーバーをインストールする主な理由は、リソースの割り当てです。追加データベース サーバーにより、データベースの増大を分けることができます。たとえば、会社は大きいですが、会社内の 1 つのグループのみが Telelogic Synergy を使用するような場合は、すべてのソース コード、ドキュメント、テスト オブジェクトを格納するデータベースを 1 つ作成できます。その後、会社が Telelogic Synergy はすべてのプロジェクトにとって最適なツールであると判断した場合は、ソースコード用、ドキュメント用、テスト用に、個別のデータベースを作成して広く利用することが可能です。さらに、データベースごとに別のサーバーを使用することもできます。

追加 Windows サーバーをインストールするには、以下の要件を満たす必要があります。

**ユーザー要件：** ローカル アドミニストレータ グループのメンバーであること。  
ローカル NTFS ファイル システム パーティションへの書き込み権限を持っていること。  
Active Directory ユーザーであること。

**OS 要件：** readme ファイルまたは Telelogic Synergy サポート ウェブ サイトで確認してください。

**前提条件：** メイン Windows サーバーがインストール済みであること  
%windir%\System32\drivers\etc\services  
ファイルが書き込み可能であること。  
ドメインにログオン可能であること。

**注記：**メイン サーバーと追加サーバーはドメイン環境にインストールする必要があります。

追加 Windows サーバーをインストールするには、以下のステップを行います。

1. Windows ドメインにログオンします。
2. Telelogic Synergy インストーラを開始します。
  - DVD からインストールする場合は、Telelogic Synergy Windows サーバーが含まれている DVD を DVD ドライブに挿入します。Windows

タスクバーで**スタート** ボタンを右クリックし、ショートカットメニューを表示します。**エクスプローラ** をクリックし、Windows エクスプローラを開きます。

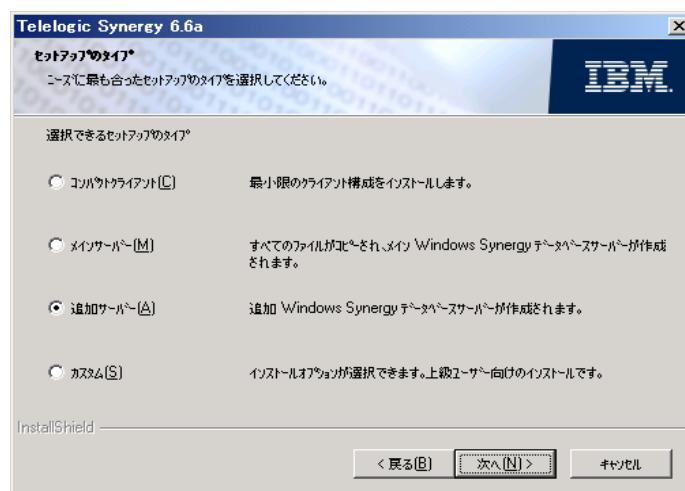
DVD\_drive:¥win\_servers¥synergy\_server に移動し、**setup.exe** をダブルクリックして、**ウェルカム** ダイアログボックスを表示します。

- ダウンロードからインストールする場合は、**synergy66a.exe** をダブルクリックして**ウェルカム** ダイアログボックスを表示します。

**注記**：Telelogic Synergy または Informix のインストールをすでに行っていた場合は、警告ダイアログが表示されます。かまわず続行すると、現行のインストール済 Telelogic Synergy または Informix を新しいインストールで上書きします。

3. **次へ** をクリックして、**使用許諾契約** ダイアログボックスを表示します。ライセンス事項を確認して受け入れます。
4. **次へ** をクリックして、**インストール先の選択** ダイアログボックスを表示します。デフォルトのインストール場所を受け入れるか、**Browse** ボタンをクリックして、別の場所を指定できます。
5. **次へ** をクリックして、**セットアップのタイプ** ダイアログボックスを表示します。

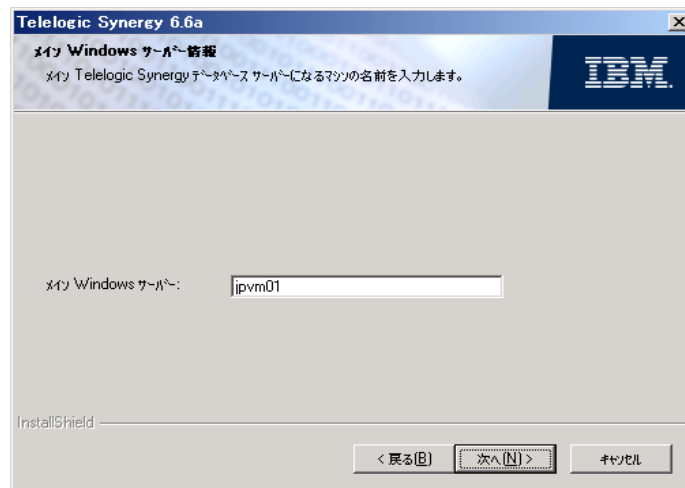
ドメインユーザーであり、ローカルアドミニストレータグループのメンバーである場合、**セットアップのタイプ** ダイアログボックスが表示されます。





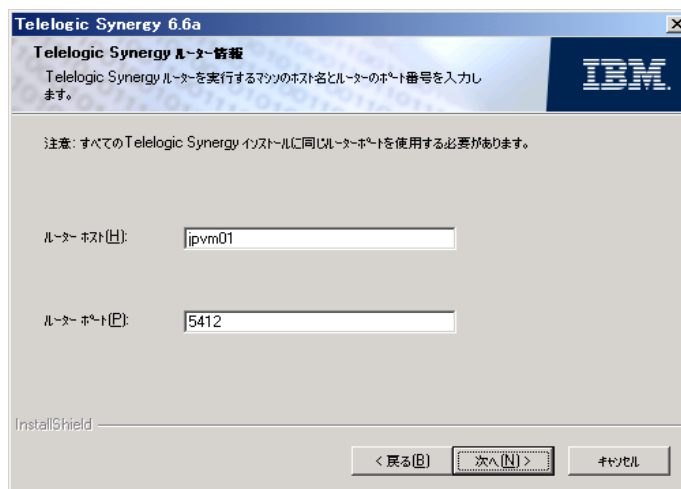
6. **セットアップのタイプ** ダイアログボックスで、**追加サーバー** ボタンをクリックします。
7. **informix パスワード** ダイアログで、*informix* ユーザーのパスワードをパスワードボックスに入力し、パスワードの**確認**ボックスにもう一度入力します。
8. **次へ**をクリックして、**メイン Windows サーバー情報**ダイアログボックスを表示します。

**メイン Windows サーバー情報**ダイアログボックスで、メイン Telelogic Synergy データベース サーバーのマシン名を入力します。



9. **次へ**をクリックし、以下の1つを行います。
  - **Telelogic Synergy ルーター情報**ダイアログボックスが表示されたら、ステップ 10 に進みます。
  - **Informix 情報**ダイアログボックスが表示されたら、インストールプログラムがメイン サーバーマシンからルーター ポート番号を決定しています。ステップ 11 の **b** に進みます。
  - **Informix データベース サーバー情報**ダイアログボックスが表示されたら、インストールプログラムがメイン サーバーマシンからルーター ポート番号と *informix* ポート番号を決定しています。ステップ 13 に進みます。
10. 必要な場合、適切なボックスにルーターのホスト名とポート番号入力します。デフォルトでは、Telelogic Synergy ルーターは 5412 を使用します。

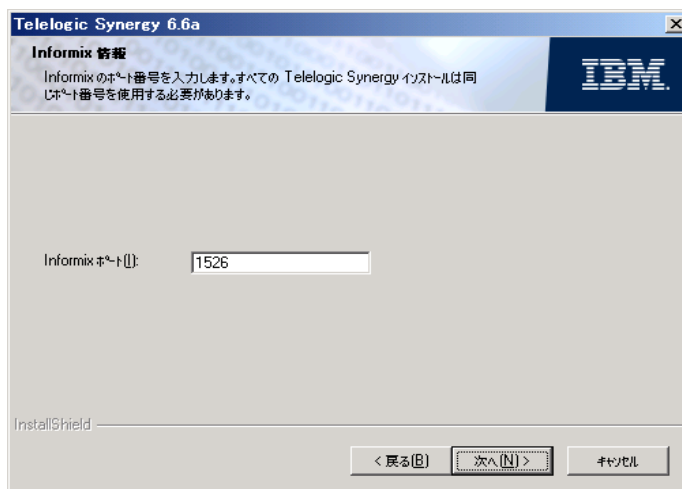
ポート番号はルーター マシンで指定したものと同一である必要があります。デフォルトでルーター マシンはメインサーバーになります。



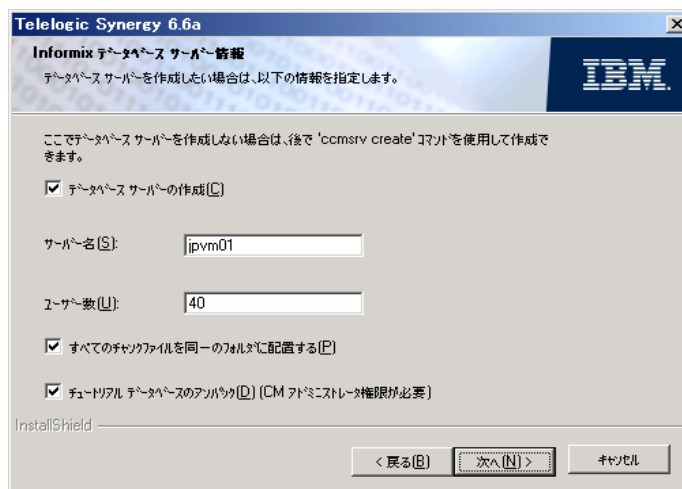
11. 次へをクリックし、以下の1つを行います。

- a. **Informix 情報** ダイアログボックスが表示されない場合は、インストールプログラムが *informix* ポート番号を決定しています。ステップ 13 に進みます。
- b. Informix が使用するデフォルトのポート番号 (1526) がすでに使用されている場合は、**Informix 情報** ダイアログボックスの **Informix ポート** ボックスでポート番号を変更します。ポート番号 1526 が使用可能か不確かな場合は、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の Services ファ

イルを参照してください。詳細については、21 ページの「Services ファイルの確認」を参照してください。



12. 次へをクリックして、**Informix データベース サーバー情報** ダイアログボックスを表示します。
13. **Informix データベース サーバー情報** ダイアログボックスで設定を行います。



データベース サーバー ダイアログのデフォルト設定は、単に設定例として提示されます。ダイアログのデフォルト設定をベースに 16 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域計画」で計画した設定を行ってください。このセクションを完了していない場合は、これらのダイアログでの設定を行う前に、このセクションでの計画を完了してください。

- 旧リリースからのアップデートの場合は、**データベース サーバーの作成**を選択しないでください。その他の場合はすべて、このチェックボックスを選択します。

**データベース サーバーの作成**を選択しない場合、新しく Informix ソフトウェアをインストールしますが新しいデータベース サーバーは作成されません。

**注意！** 同じマシンで旧リリースからアップグレードする場合、**データベース サーバーの作成**を選択すると、古いチャンク ファイルが上書きされる場合があります。これによってデータ損失する可能性があります。詳細については、現在のインストールに関連するアップグレード手順を参照してください。これらの手順は、1 ページの「旧リリースからのアップグレード」で説明されているとおりに使用できます。

- データベース サーバーを作成する場合、**サーバー名**ボックスにサーバー名を入力します。あるいは、デフォルトのコンピュータ名を使用できます。
- Windows サーバー領域計画をベースに**ユーザー数**ボックスに適切なユーザー数を入力します。
- デフォルトでは、**すべてのチャンク ファイルを同一のフォルダに配置する**が選択されます。この設定が最適です。同じディレクトリにチャンク ファイルを格納したい場合はこの設定のままにします。そうでない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。詳細については 16 ページの「メインおよび追加 Windows サーバー用の領域計画」のワークシートの「インストールエリアの構成」を参照してください。

チャンク ファイルについて学習するには『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベース サーバーの作成」を参照してください。

14. **次へ** をクリックして、**データベース サーバー情報の作成**ダイアログボックスを表示します。

**注記：** データベース サーバーを作成する場合（ステップ 13 を参照）、サーバーの作成によって既存の onconfig

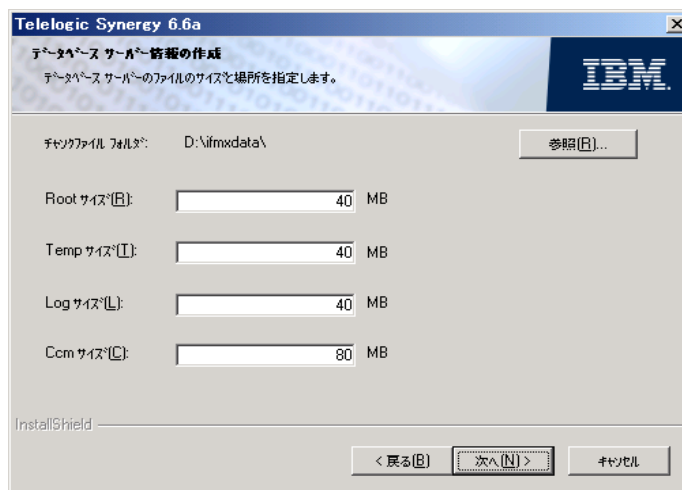
ファイル、SQLHOSTS レジストリ エントリ、または Informix データベース チャンク ファイルが上書きされることを告げる警告メッセージが表示されます。  
**OK** をクリックして、**Informix データベース サーバー情報** ダイアログボックスを表示します。

15. ステップ 13 で、すべてのチャンク ファイルを同一のフォルダに配置するを選択し、チャンク ファイルへの領域の割り当て方法がわからない場合は、20 ページの「ディスク領域注意事項」の手順に従ってください。

**注意！** チャンク ファイルをデータベースサーバーに作成した後は移動しないでください。移動すると、データベース サーバーは動作しなくなり、データを失う可能性があります。

チャンク ファイルを同じフォルダに保存するには

- a. データベース サーバー情報の作成ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata¥` を受け入れるか、**Browse** ボタンを使用して別の場所を指定します。



- b. デフォルトを変更する必要がある場合、dbspaces のサイズを **Root サイズ**、**Temp サイズ**、**Log サイズ**、**Ccm サイズ**に入力してください。各 dbspace のサイズを計算する方法については、『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』の「データベース サーバーの作成」を参照してください。

- c. **次へ**をクリックして、**UNIX Telelogic Synergy** サーバーへの**接続**ダイアログボックスを表示します。53 ページのステップ 16 に進んでください。

**チャンク ファイルを別フォルダに保存するには**

- a. **Root チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:\¥ifmxdata¥` を受け入れるか、**Browse** ボタンを使用して別の場所を指定します。

**注意！** チャンク ファイルをデータベースサーバーに作成した後は移動しないでください。移動すると、データベース サーバーは動作しなくなり、データを失う可能性があります。

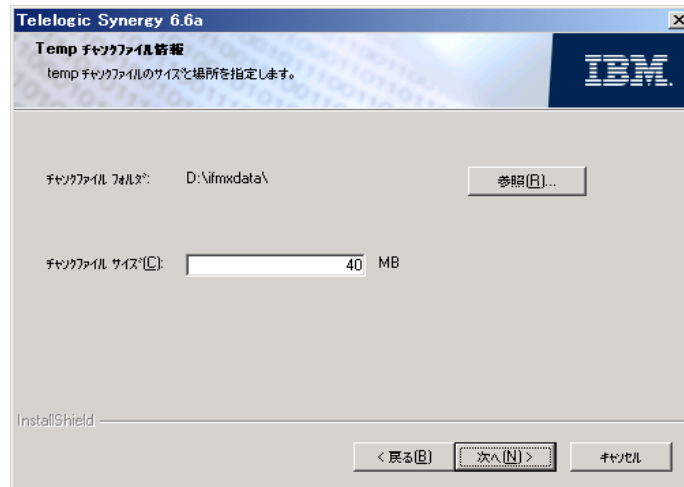


- b. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを **チャンク ファイル サイズ** ボックスに入力します。

以下のダイアログで要求される 4 つの `dbspace` サイズ (`rootdbs`、`tempdbs`、`log`、`ccm`) の計算方法については、『**Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版**』の「データベース サーバーの作成」を参照してください。

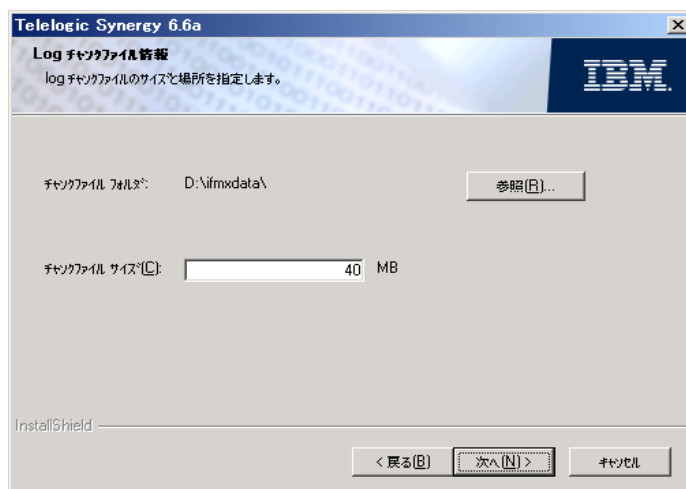
- c. **次へ**をクリックして、**Temp チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。

**注記：** チャンク ファイルがすでに指定ディレクトリに存在する場合、これらのファイルが上書きされることを告げる警告ダイアログボックスが表示されます。

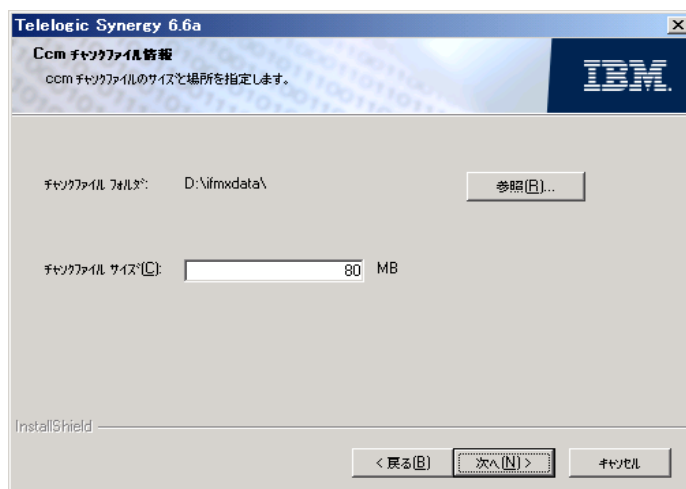


- d. **Temp チャンク ファイル情報**ダイアログボックスで、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata\` を受け入れるか、**Browse** ボタンを使用して別の場所を指定します。
- e. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを**チャンク ファイル サイズ** ボックスに入力します。

- f. 次へをクリックして、**Log チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。

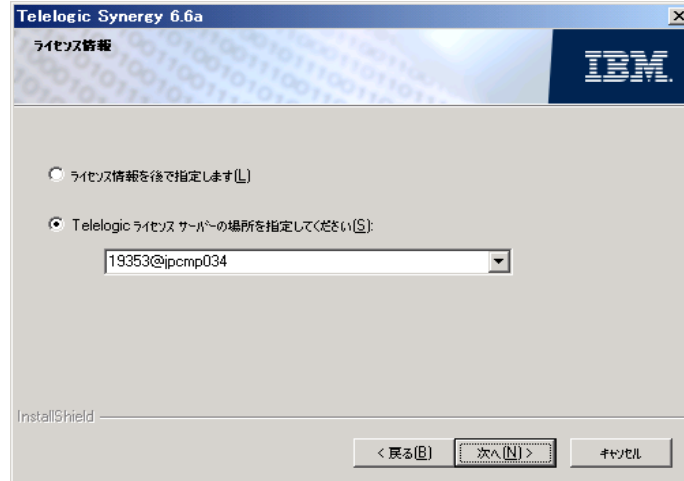


- g. **チャンク ファイル フォルダ**で、デフォルトの場所として `drive:\ifmxdata\` を受け入れるか、**Browse** ボタンを使用して別の場所を指定します。
- h. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを**チャンク ファイル サイズ** ボックスに入力します。
- i. 次へをクリックして、**Ccm チャンク ファイル情報**ダイアログボックスを表示します。





- j. **チャンク ファイル フォルダ** ボックスで、デフォルトの場所として `drive:¥ifmxdata¥` を受け入れるか、**Browse** ボタンを使用して別の場所を指定します。
  - k. デフォルトを変更する必要がある場合は、チャンク ファイルのサイズを**チャンク ファイル サイズ** ボックスに入力します。
  - l. これでチャンク ファイルを別のディレクトリに保存する設定が終わりました。**次へ**をクリックして、**UNIX Telelogic Synergy サーバーへの接続**ダイアログボックスを表示します。
16. クライアントを UNIX サーバーに接続したい場合は、**UNIX Telelogic Synergy サーバーへの接続**を選択します。そうでない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。
- ステップ 16 で **UNIX Telelogic Synergy サーバーへの接続**を選択した場合は、UNIX インストールパス（例、`/usr/local/ccm66a`）を **CCM\_HOME** ボックスに入力します。選択しなかった場合は、このチェックボックスを選択解除したままにします。
17. **ライセンス情報**ダイアログボックスが表示されたら、適切なライセンスオプションを選択します。



ライセンス情報の取得の詳細については、21 ページの「ライセンスの取得」を参照してください。

18. **次へ**をクリックして、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスを表示します。

a. **現在の設定** リストをスクロールして設定を確認します。設定の変更が必要な場合は、変更したいダイアログボックスが表示されるまで**戻る**をクリックします。設定を変更した後、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスに戻るまで**次へ**をクリックします。

b. すべての設定が正しければ**次へ**をクリックします。

ファイルがシステムにロードされている間、ロードの進捗状況を示すウィンドウがスクリーン中央に表示されます。

インストール プログラムの終了後に再起動するように尋ねるダイアログボックスが表示された場合は、ダイアログボックスに表示される手順に従ってインストールを完了してください。再起動が必要かどうかはインストールプログラムが判断します。

19. **完了**をクリックします。これで、Telelogic Synergy 追加 Windows サーバーのインストールは完了です。

すべての設定情報が以下のログファイルに記録されます。

```
C:\¥Documents and Settings¥user¥Application  
Data¥Telelogic¥Telelogic Synergy 6.6a install.log.
```

データベースをアンパックして、CM アドミニストレータとして Telelogic Synergy セッションを開始できます。しかし、Telelogic Synergy データベースにユーザーを追加するまで、データベースを使用することはできません。

データベースのアンパック、データベースへのユーザーの追加、Telelogic Synergy セッションの開始については、『Telelogic Synergy 管理者ガイド Windows 版』を参照してください。

### 次に行うインストール

カスタム インストールを行うには、56 ページの「カスタム インストールの実行」を参照してください。

コンパクト クライアントをインストールするには、62 ページの「コンパクト クライアントのインストール」を参照してください。

マスタ インストーラを使用してクライアントをインストールするには、DVD の win\_clients セクションに収録されている *Readme* ファイルを参照してください。

## 自動更新プロセスのガイドライン

追加 Windows サーバーのインストールが完了したら、ユーザーは Telelogic Synergy クライアントをインストールできます。ただし、CM アドミニストレータが更新の必要性についてすべてのユーザーにメールを送信し、インストールを完了するためにユーザーが必要とするすべての情報を提供する必要があります。

## カスタム インストールの実行

カスタム インストールでは、インストールしたい Telelogic Synergy コンポーネントを選択できます。上級ユーザーのみがこのオプションを選択してください。どのコンポーネントが同時に使用されるか分からない場合は、**セットアップのタイプ** ダイアログボックスからパッケージ化されているオプションを使用してください。

**注記：**1つのメインサーバーを1つのサイトにインストールできます。Windows サーバーをインストールするには、Informix の Telelogic Synergy を使用するライセンスが必要です。

カスタム インストールを行う前に以下の条件を満たす必要があります。

**ユーザー要件：**コンパクトクライアント以外のすべてのコンポーネントをインストールできる管理者権限をもっていること。  
ローカル NTFS ファイル システム パーティションへの書き込み権限を持っていること。  
メインおよび追加 Windows サーバーすべてのコンポーネントのローカルパーティションへの書き込み権限を持っていること。  
Active Directory ユーザー

**OS 要件：** readme ファイルまたは Telelogic Synergy サポート ウェブ サイトで確認してください。

**前提条件：**コンパクトクライアント以外のすべてのコンポーネントをインストールするには、  
C:¥Windows¥System32¥drivers¥etc¥services ファイルが書き込み可能なこと。  
コンパクトクライアント以外の任意のコンポーネントをインストールするためには、ドメインにログインしていること。

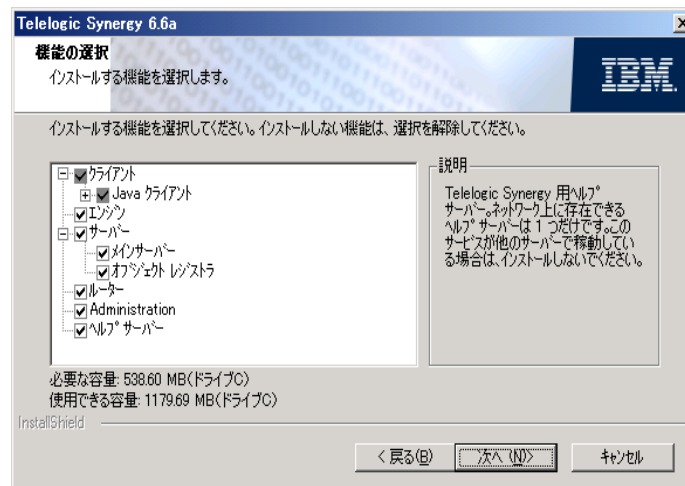
**注記：**コンパクトクライアントはドメイン、ワークグループ、ローカルマシンにインストールできます。

カスタム インストールを行うには以下のステップを行います。

1. 必要に応じて、Windows ドメインにログオンします。
2. Telelogic Synergy インストーラを開始します。
  - DVD からインストールする場合は、Telelogic Synergy Windows サーバーが含まれている DVD を DVD ドライブに挿入します。Windows タスクバーでスタート ボタンを右クリックし、ショートカットメニューを表示します。エクスプローラ をクリックし、Windows エクスプローラを開きます。  
DVD\_drive:¥win\_servers¥synergy\_server に移動し、

setup.exe をダブルクリックして、**ウェルカム** ダイアログボックスを表示します。

- ダウンロードからインストールする場合は、synergy66a.exe をダブルクリックして**ウェルカム** ダイアログボックスを表示します。
3. **次へ**をクリックして、**使用許諾契約** ダイアログボックスを表示します。ライセンス事項を確認して受け入れます。
  4. **次へ**をクリックして、**セットアップのタイプ** ダイアログボックスを表示します。**カスタム**をクリックします。
  5. **次へ**をクリックして、**機能の選択**ダイアログボックスを表示します。



6. インストールするオプションを選択します。インストール依存関係は、階層リストを使用して指定されます。つまり、ロジカルなインストール項目がグループ化されます。
7. インストールしないコンポーネントの選択を解除します。 必要な領域と使用可能な領域の値を比較し、コンポーネントをインストールするのに十分な領域があることを確認してください。

不要なコンポーネントのインストールを避けるため、オプションの組み合わせについて間違いがないことを確認してください。

たとえば、管理およびヘルプ サーバーのみをインストールする理由はほとんど考えられません。しかし、メイン Windows サーバーをインストールする場合は、これらのすべてのオプションを選択するはずです。

あるいは、Telelogic Synergy サーバーに多くのユーザーのエンジンプロセスによって過負荷になっている場合は、追加エンジン サーバーとして

使用するシステムにエンジン コンポーネントをインストールする必要があるかもしれません。58 ページの「カスタム インストールの例：エンジン」を参照してください。

## カスタム インストールの例：エンジン

**注記：**これは、カスタム インストールの一例です。他のオプションを使用することもできます。

カスタム インストールでエンジンをインストールするには以下を行います。

1. **機能の選択**ダイアログボックスで、**エンジン**のみを選択します。他のチェックボックスの選択をすべて解除します。
2. **次へ**をクリックして、**メイン Windows サーバー情報**ダイアログボックスを表示します。
3. **メイン Windows サーバー**ボックスに、Telelogic Synergy サーバーとなるマシン名を入力します。
4. **次へ**をクリックし、以下の1つを行います。
  - **Telelogic Synergy ルーター情報**ダイアログボックスが表示されたら、ステップ 5 に進みます。
  - **Telelogic Synergy ヘルプ サーバー情報**ダイアログボックスが表示されたら、ステップ 8 に進みます。
  - **Informix 情報**ダイアログボックスが表示されたら、インストールプログラムがメイン サーバー マシンからルーター ポート番号を決定しています。ステップ 9 に進みます。
  - **ファイル コピーの開始**ダイアログボックスが表示されたら、インストールプログラムがメインサーバーマシンからルーター ポート番号と *informix* ポート番号を決定しています。ステップ 10 に進みます。
5. 必要な場合、適切なボックスにルーターのホスト名とポート番号を入力します。
6. デフォルトでは、Telelogic Synergy ルーターは 5412 を使用します。ポート番号はルーター マシンで指定したものと同一である必要があります。デフォルトでルーター マシンはメイン サーバーになります。
7. **次へ**をクリックし、以下の1つを行います。
  - **Telelogic Synergy ヘルプ サーバー情報**ダイアログボックスが表示されたら、ステップ 8 に進みます。
  - **Informix 情報**ダイアログボックスが表示されたら、ステップ 9 に進みます。
  - **ファイル コピーの開始**ダイアログボックスが表示された場合は、インストールプログラムが *informix* ポート番号を決定しています。ステップ 10 に進みます。

8. **Telelogic Synergy ヘルプ サーバー情報** ダイアログでは、ヘルプ サーバー ポート番号を変更できます。ヘルプサーバーは、Telelogic Synergy ヘルプ ページをサービスするウェブ サーバーです。Telelogic Synergy では、ルーター ホスト システムで動作する 1 つのヘルプ サーバーが必要です。

デフォルトのヘルプ サーバー ポート番号 (8400) がすでに使用されている場合は、**ヘルプ サーバー ポート** ボックスでポート番号を変更します。ポート番号 8400 が使用可能か不確かな場合は、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の **Services** ファイルを参照してください。詳細については、21 ページの「**Services ファイルの確認**」を参照してください。

9. **次へ**をクリックして、**Informix 情報**ダイアログボックスを表示します。

Informix が使用するデフォルトのポート番号 (1526) がすでに使用されている場合は、**Informix 情報**ダイアログボックスの **Informix ポート** ボックスでポート番号を変更します。

ポート番号 1526 が使用可能か不確かな場合は、ディレクトリ `%windir%\System32\drivers\etc\services` の **Services** ファイルを参照してください。詳細については、21 ページの「**Services ファイルの確認**」を参照してください。

**次へ**をクリックして、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスを表示します。

10. **ファイル コピーの開始**ダイアログボックスで、**現在の設定**リストをスクロールして設定を確認します。設定の変更が必要な場合は、変更したいダイアログボックスが表示されるまで**戻る**をクリックします。設定を変更した後、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスに戻るまで**次へ**をクリックします。

11. **次へ**をクリックします。

プログレス インジケータ ウィンドウに、インストールの進捗状況が表示されます。

ファイルがシステムにロードされると、**InstallShield ウィザード完了**ダイアログボックスが表示されます。

12. **完了**をクリックします。これで、Telelogic Synergy エンジンのインストールは完了です。これで、このマシンはエンジンをローカルに実行するか、他のマシンで Telelogic Synergy クライアントを実行している複数ユーザーのエンジン サーバーとして利用可能になりました。

**注記：**すべての設定情報は、ログファイル `C:\Documents and Settings\user\Application Data\Telelogic\Telelogic Synergy 6.6a\install.log` に書き込まれます。

## サーバー ソフトウェアのインストール後

### 自動更新によるクライアント インストールの更新

同じリリースのクライアント インストールにプッシュ形式で更新を適用できます。たとえば、パッチでメイン サーバーを更新した後は、ユーザーにプッシュ形式でそのクライアントインストールを製品の同じバージョンに更新させることができます。

ユーザーが Windows 上で Telelogic Synergy を起動すると、製品を更新する必要があるという内容の通知メッセージがユーザーに送信されます。以下のプロセスが実行されます。

- 更新することをユーザーが決定すると、更新インストーラがサーバーからダウンロードされて起動されます。更新が完了した時点で、ユーザーはクライアントを再起動できます。
- 更新しないことをユーザーが決定すると、サーバーと異なるバージョンのためクライアントを再起動できないというメッセージがユーザーに送信されます。

ユーザーが Windows の `-nogui` モードで Telelogic Synergy を起動すると、製品を更新する必要があるという内容の通知メッセージがユーザーに送信されます。クライアントは続行できないため、更新を手動でインストールする必要があります。



# 6

## クライアントのインストール

ネットワークに Telelogic Synergy Windows サーバーがインストールされた後に、Telelogic Synergy クライアントをインストールできます。

### Telelogic Synergy クライアント

ユーザーは、以下の手順で Telelogic Synergy Windows クライアントをインストールできます。

- CM アドミニストレータから提供された URL からインストールする。61 ページの「クライアントのインストール」を参照してください。
- コンパクト クライアントをインストールする。62 ページの「コンパクトクライアントのインストール」を参照してください。
- テレロジック ライフサイクル ソリューションのメディアから、複数の Telelogic クライアントをインストールする。

### 自動更新プロセスのガイドライン

メイン Windows サーバーのインストールが完了したら、ユーザーは Telelogic Synergy クライアントをインストールできます。CM アドミニストレータは、すべてのユーザーに向けて、クライアントの更新が必要であることと、Windows クライアントのインストールイメージの URL を連絡します。

## コンパクト クライアントのインストール

コンパクト クライアントをドメイン、ワークグループ、またはローカルマシンにインストールできます。コンパクト クライアントのインストールを行うと、Telelogic Synergy と Telelogic Synergy Classic の二つのグラフィカル ユーザー インターフェイスがインストールされます。

コンパクト クライアントをインストールする前に以下の条件を満たす必要があります。

**ユーザー要件：** ローカル アドミニストレータ グループのメンバーであること。

**OS 要件：** Windows 2003 Server、または  
Windows XP Professional Service Pack 2

**前提条件：** なし

**注記：** Telelogic Synergy Windows クライアント ソフトウェアをインストールする前に、TCP/IP プロトコルサポートがインストールされて有効になっていることを確認してください。Windows システムはこのプロトコルと一緒に提供されません。

コンパクトクライアントは、ダウンロード可能なインストール機能または自動更新機能を使用する場合にインストールされます。ダウンロードを開始するには、Telelogic Synergy ヘルプ サーバーを識別する URL を指定する必要があります。ここが、インストールを提供する場所となります。URL のフォーマットは、以下のとおりです。

`http://hostname:port_number/install.html`

`hostname` は、サーバーがインストールされているマシンのホスト名、`port_number` は、ヘルプ サーバーのポート番号です。

CM アドミニストレータは、ダウンロードを行ってコンパクトクライアントのインストールを実行するユーザーに、URL を提供する必要があります。Windows サーバーの更新後にユーザーがそのクライアント インストールを更新すると、接続が自動的に確立されます。自動更新の詳細については、60 ページの「自動更新によるクライアント インストールの更新」を参照してください。

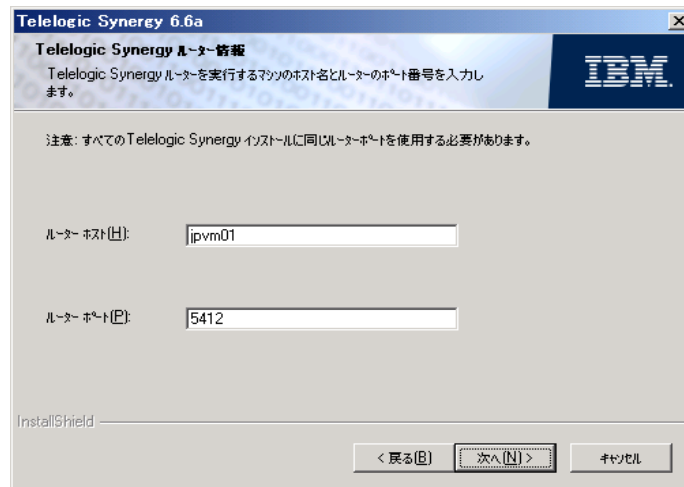
コンパクト クライアントをインストールするには以下のステップを行います。

1. Windows ドメインにログオンします。
2. Telelogic Synergy インストーラを開始します。
  - DVD からインストールする場合は、Telelogic Synergy Windows サーバーが含まれている DVD を DVD ドライブに挿入します。Windows

タスクバーでスタート ボタンを右クリックし、ショートカットメニューを表示します。エクスプローラ をクリックし、Windows エクスプローラを開きます。

DVD\_drive:¥win\_clients¥synergy に移動し、setup.exe をダブルクリックして、**ウェルカム** ダイアログボックスを表示します。

- ダウンロードからインストールする場合は、synergy66a.exe をダブルクリックして**ウェルカム** ダイアログボックスを表示します。
  - ウェブ ロケーションからインストールする場合は、以下の形式のインストール ウェブページの URL を入力します。  
http://hostname:port\_number/install.html.
3. **次へ**をクリックして、**使用許諾契約**ダイアログボックスを表示します。ライセンス事項を確認して受け入れます。
  4. **次へ**をクリックして、**セットアップのタイプ** ダイアログボックスを表示します。CM アドミニストレータから提供された URL からインストールする場合は、ステップ 5 に進みます。
  5. **コンパクトのクライアント** ボタンをクリックして、**Telelogic Synergy ルーター情報**ダイアログボックスを表示します。



インストールプログラムが、ルーターのポート番号をメイン サーバマシンから取得できる場合があります。

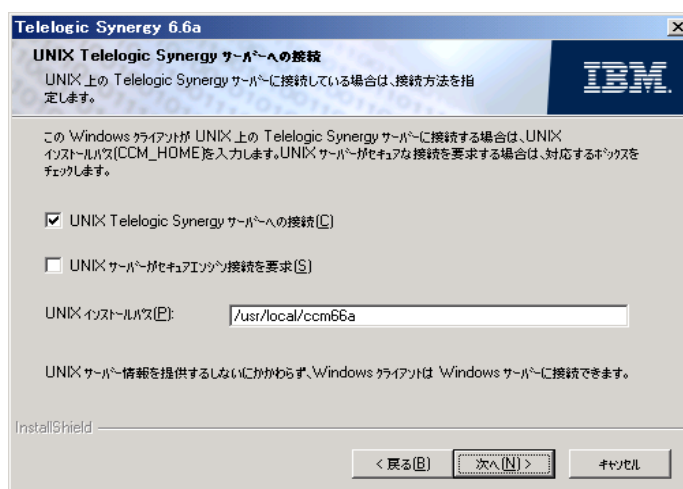
6. デフォルトを変更する必要がある場合は、適切なボックスにルーターのホスト名とポート番号を入力します。

ルーターのホスト名は通常、Telelogic Synergy メイン Windows サーバーを含むマシンの名前ですが、UNIX マシンの場合もあります。デフォルトでは、Telelogic Synergy ルーターの使用するポート番号は 5412 です。インストールしたルーターが別のポート番号を使用する場合は、**ルーターポート**ボックスにポート番号を入力してください。

使用するポート番号が不確かな場合は、Windows ルーター マシンのディレクトリ %windir%\¥System32¥drivers¥etc¥services'81A または UNIX マシンのディレクトリ /etc/services を参照してください。詳細については、21 ページの「Services ファイルの確認」を参照してください。

**注記：**正しいルーター ポートを使用し、サーバーで使用されているものと同じであることを確認してください。

7. **次へ**をクリックして、**UNIX Telelogic Synergy サーバーへの接続**ダイアログボックスを表示します。



8. **UNIX Telelogic Synergy サーバーへの接続**ダイアログボックスを更新します。
  - a. クライアントを UNIX サーバーに接続したい場合は、**UNIX Telelogic Synergy サーバーへの接続**を選択します。そうでない場合は、このチェックボックスの選択を解除してください。
  - b. **UNIX Telelogic Synergy サーバーへの接続**を選択した場合は、セキュア接続を行うかどうかを指定します。

- c. **UNIX Telelogic Synergy** サーバーへの接続を選択した場合は、UNIX インストールパスを **CCM\_HOME** ボックスに入力します。
9. **次へ**をクリックして、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスを表示します。
10. **現在の設定**リストをスクロールして設定を確認します。設定の変更が必要な場合は、変更したいダイアログボックスが表示されるまで**戻る**をクリックします。設定を変更した後、**ファイル コピーの開始**ダイアログボックスに戻るまで**次へ**をクリックします。
11. すべての設定が正しければ**次へ**をクリックします。

プログレス インジケータ ウィンドウに、インストールの進捗状況が表示されます。ファイルがシステムにロードされると **InstallShield ウィザード完了**ダイアログが表示されます。

12. デスクトップにショートカットを作成しない場合は、チェックボックスの選択を解除します。その操作を行わない場合は、**完了**をクリックします。これで、Telelogic Synergy コンパクトクライアントのインストールは完了です。

README ファイルはインストール終了後でもいつでも閲覧できます。Windows タスクバーで、**スタート > すべてのプログラム > Telelogic > Telelogic Lifecycle Solutions Tools > Telelogic Synergy 6.6a > Read Me** をクリックします。このパスはインストール時にデフォルトプログラムフォルダにインストールしたことを前提にしています。

データベースの有効なユーザーであれば、Telelogic Synergy セッションを開始できます。セッションの開始に問題がある場合は、CM アドミニストレータに相談してください。



## 付録：特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 106-8711

東京都港区六本木 3-2-12

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

---

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、製造元に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for Rational Software  
IBM Corporation  
1 Rogers Street  
Cambridge, Massachusetts 02142  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。



## 商標

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Telelogic、Telelogic Synergy、Telelogic Change、Telelogic License Server、Telelogic Change Distributed、Telelogic Synergy Distributed、および Telelogic Directory Server は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。これらおよび他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標表示 (® または ™) が付されている場合、これらの表示は、この情報が公開された時点で、米国において、IBM が所有する登録商標またはコモン・ロー上の商標であることを示しています。このような商標は、その他の国においても登録商標またはコモン・ロー上の商標である可能性があります。IBM および関連の商標については、[www.ibm.com/legal/copytrade.html](http://www.ibm.com/legal/copytrade.html) をご覧ください。

Informix は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows 2003、Windows XP、Windows Vista、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



# 索引

## C

CCM\_HOME、UNIX インストールパス  
の指定 53

## D

dbspace、説明 20

## E

ESS 13

## I

IBM カスタマ サポート 3  
informix ユーザー、設定 29

## L

log チャンク ファイル 38, 52

## R

readme 1  
rootdbs チャンク ファイル 36

## S

Services ファイル、データ ベースサー  
バー要件 21  
setup プログラム  
Informix データベース サーバーの  
インストール 47  
Informix データベース サーバーの  
インストール 33  
チャンク ファイルの場所 20

## T

Telelogic Lifecycle Solutions ライセンス  
ガイド、参照先 8  
Telelogic Synergy

自動更新 62

ダウンロード可能なインストール  
62

ドキュメント 4

Telelogic Synergy ウェブ サーバー、説  
明 5

Telelogic Synergy クライアント、説明 5

Telelogic Synergy サーバー、説明 5

Telelogic Synergy データベース、説明 5

Telelogic Synergy のドキュメント 4

tempdbs チャンク ファイル 37, 51

temp チャンク ファイル、インストール  
される場所 37

## U

UNIX サーバー、指定 40, 53

## あ

アップグレード

旧リリースから 1

チャンク ファイルの上書き 33, 48

## い

インストール

インストールの状態 41, 54, 59, 65

ウェブを使用 62

カスタム インストール 56

コンパクト クライアント 62

コンポーネント 11

自動更新 42, 55, 60

追加サーバー 43

データベースへのユーザー追加 42,  
54, 65

要件 13, 18

ルーターとライセンス マネージャ  
30

## う

上書き

Informix チャンクファイル 34, 48

onconfig ファイル 34, 48

SQLHOSTS レジストリ エントリ 34, 48  
チャンク ファイル、アップグレード時 33, 48

## え

エンジン 6, 12, 13, 58  
エンジン サーバー、説明 6  
エンジン スタート サービス 13

## お

オブジェクト レジストラ、説明 6  
オペレーティング システム  
クライアント 18  
サーバー 14

## か

カスタム インストール  
エンジンのインストール 58  
オプション 57  
コンポーネントのインストール 56  
カスタム クライアント インストール 13  
仮想メモリ、サーバー 15

## き

共有クライアント インストール 13

## く

クライアント  
自動更新 42, 55, 60  
説明 5  
要件 18  
クライアントの自動更新 42, 55, 60

## け

計画  
クライアント 18  
サーバー 13, 20  
システム領域 19

## こ

更新  
クライアントのパッチ更新 60  
クライアントへのプッシュ 55  
自動 42  
互換性 2  
コンパクト クライアント  
インストール方法 62  
コンポーネント 11  
実行 12  
設定の概要 65

## さ

サーバー  
クライアントの UNIX サーバー 40, 53  
準備 20  
追加サーバーのインストール 43  
名前 33, 48  
要件 15

## し

自動更新、必要な情報 61  
自動更新プロセス 61

## せ

設定情報、ログ ファイルの場所 41, 54  
設定の概要  
コンパクト クライアント 65  
メイン Windows サーバー 41, 54, 59

## ち

チャンク ファイル  
サーバー作成時に上書き 34, 48  
追加サーバー 53  
場所 39  
別の場所 36, 50  
他の場所へ移動 20  
保存 34, 35, 48, 49  
注意、説明 4

## 注記、説明 4

- チュートリアル データベース  
インストール 34
- ショートカットの設定 42

## つ

## 追加サーバー

- インストール 43
- メインサーバーの指定 45

## て

## ディスク領域

- クライアント 18
- 計画 19
- サーバー 14
- チャンク ファイルの場所 20
- データベース サーバー、説明 5
- データベース、説明 5
- データベースのアンパック 9, 42, 54, 65

## と

- ドメイン名 27

## ね

- ネットワーク プロトコル  
クライアント 18
- サーバー 14

## は

- パッチ、インストールの強制 60
- ハードウェア  
クライアント 18
- サーバー 15

## ほ

- ホスト ルーター 31
- ポート、ルーター 30

## め

## メイン Windows サーバー

- UNIX サーバー接続 40, 53
- クライアントの UNIX サーバーへの  
接続 40, 53
- 作成 33, 47
- 設定の概要 41, 54, 59
- チャンク ファイルの保存 35, 49
- ルーター/ライセンス マネージャ  
のインストール 30

## メモリ

- クライアント 18
- サーバー 15

## ゆ

## ユーザー

- アップグレードの強制 42, 55
- 数を指定 33, 48
- データベースへの追加 42, 54, 65
- パッチのプッシュ 60

## よ

## 要件

- Services ファイル 21
- クライアント 18
- サーバー 13

## 用語解説 5

## ら

- ライセンス ガイド、参照先 8
- ライセンス ファイル、サーバー 15
- ライセンス マネージャ  
インストールするオプション 30
- 説明 5

## り

## 領域

- サーバーの計画 16
- ワークシート 16, 19
- リリース ノート 1

## る

- ルーター
  - インストールするオプション 30
  - 説明 6
  - ホスト 31
  - ポート 30

## ろ

- ログ
  - 設定情報 (場所) 41, 54

## わ

- ワークエリア、説明 6
- ワークシート
  - クライアント領域の計画 19
  - サーバー領域の計画 16
  - 領域計画 19